

子育て学習プログラム



 京都府教育委員会

目次

本書の刊行にあたって

学習プログラムの実施にあたって

プログラムの見方

1章 人生をデザインする

プログラム 1	少子高齢社会を考える	4
プログラム 2	様々な子育てスタイルから考えよう	
(1)	子育て体験を聞く	6
(2)	子育てについてみんなで語ろう	8
プログラム 3	ワークライフバランスを考える	
(1)	仕事と育児の両立を考える	10
(2)	ロールプレイを通してワークライフバランスを考える①	12
(3)	ロールプレイを通してワークライフバランスを考える②	14
プログラム 4	将来のライフデザインを描く	
(1)	社会の現状を知りライフデザインを描く	16
(2)	生涯の経済計画をもとにライフデザインを描く	18
(3)	金融面からライフデザインを描く	20
(4)	未来のライフデザインを描く	22

2章 子どもを育てる

プログラム 5	結婚生活から健康を考える	24
プログラム 6	子育てっていつから始まるの？	
(1)	妊婦体験をしてみよう	26
(2)	妊婦とふれあい胎児の様子を知ろう	28
(3)	子育てっていつから始まるか考えてみよう	30
プログラム 7	赤ちゃんになってみよう	32
プログラム 8	赤ちゃんのお世話をしてみよう	
(1)	沐浴とおむつ交換体験	34
(2)	だっことお世話体験	36
プログラム 9	赤ちゃんとおふれあう	38
プログラム 10	幼児とおふれあう	40
プログラム 11	保育園（所）実習	42

資料編

国の各種統計資料	45
京都府の各種統計資料	50
連携先団体紹介	53
連携先連絡一覧	57
参考HPアドレス一覧	63
授業活用資料	64

DVD の活用について 77

本書の刊行に寄せて

本書の刊行にあたって

現在の日本には少子高齢化という大きな課題があり、それに伴って家族の在り方も変わってきています。このような背景の中、高校生にとっても子どもの育つ環境や子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割や、子どもを生き育てることの意義を学んだり、子どもと適切にかかわることができ、コミュニケーション能力を高めることが重要になってきています。また、家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、男女が互いに協力して家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識したり、共に支え合う社会の一員として主体的に生きる力を育むことも非常に大切です。

京都府教育委員会では、日本の未来を担う高校生が家族を持つことや子どもを生き育てることの意義を学び、10年後、20年後の自分の将来について考える機会を持つことが非常に重要だととらえ、実践的・体験的に学ぶことができる「子育て学習プログラム」を作成しました。

本書は、学習指導要領の趣旨に沿った多様な事例（プログラム）、国・府の各種統計資料、連携先などを示して、各府立学校の教職員が活用できる「子育て学習プログラム」となっています。また、胎児から1歳児までの乳児の成長記録の映像や、各プログラムの実践例などの電子データを記録したDVDも用意しています。

本書の作成にあたっては、高等学校の教員及び実践協力校や関係機関、NPO法人などの協力を得ました。

御協力いただきました皆様方には、この場をお借りし深く感謝申し上げます。

本書が、生徒の家庭環境や多様な考え方に配慮する中で適切に活用され、高校生が自分の未来を主体的に切り拓いていく力となることを期待します。

学習プログラムの実施にあたって

1 教員の留意事項

- (1) 連携先や講師と、授業のねらいや進め方について事前に十分な調整をしておく。
- (2) 外部会場等での実習にあたっては、安全な道順を下見し、確認する。また、所要時間も確認する。
- (3) 生徒の家庭環境には十分に配慮する。
- (4) 特有の支援を必要とする生徒及び生徒の多様な考え方には十分に配慮する。
(例：性同一性障害、性的指向など)
- (5) 活動の様子を写真等で記録する際には、その使用目的や公開の可否について事前に協議し、個人情報の取扱いについて十分配慮する。

2 生徒への事前の指導事項

- (1) 乳幼児とふれあう活動を実施する際には衛生面に十分注意する。
(例：手洗い、消毒、身だしなみ（爪を切る、髪をまとめる）など)
- (2) 外部講師や実習先で知り得た個人情報の取扱いについては十分注意する。
- (3) 実習にあたっては、参加生徒への事前の体調管理を指導する。
- (4) 一般的な心得を指導する。
 - ① 「あいさつ」は実習の基本。大きな声でしっかりと。
 - ② 笑顔で、言葉づかいは丁寧に。

3 プログラム内容の問い合わせについて

TEL：075-414-5887（社会教育課社会教育主事）
TEL：075-414-5850（高校教育課指導第1担当）

4 その他

授業で活用できる本プログラム集に掲載されているプログラム、ワークシートなどは京都府総合教育センターのホームページ ITEC に掲載します。



写真：京都府立桃山高等学校



写真：京都府立洛東高等学校

プログラムの見方

【学習単位：学年またはクラス】

家庭	商業	福祉	総合学習	LHR	<h2>プログラム名</h2> <p>～サブタイトル～</p>

※活用可能な教科等を記入しています。 ※「総合学習」＝「総合的な学習の時間」

1. 単元の目標

上記、アイコンの左端の教科にあわせて記入しています。

2. 本時の目標

上記、アイコンの左端の教科にあわせて記入しています。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
上記、アイコンの左端の教科にあわせて記入しています。			

4. 展開例（時間：〇〇分程度）

※例を記入していますので、実際の授業に合うように調整してください。

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入△分			
展開□分			
まとめ○分			

5. 準備物

このプログラムを実施するにあたっての準備物を書いています。必要に応じて調整してください。

6. 授業実践のヒント

このプログラムを実施するにあたってのヒントを書いています。必要に応じて活用してください。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

このプログラムを実施するにあたっての連携機関を書いていますので、参考にしてください。なお、連絡先は資料編に載せています。

8. 参考資料

このプログラムを実施するにあたっての参考資料を載せていますので、参考にしてください。

1章 人生をデザインする

プログラム

1

【学習単位：学年またはクラス】

公民

家庭

総合
学習

少子高齢社会を考える

～ 少子高齢社会に伴う諸課題について ～

1. 単元の目標

少子高齢社会と社会保障、地域社会の変貌と住民生活、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業などについて少子化の視点で考えさせる。

2. 本時の目標

日本が少子高齢社会を迎えて、労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていること、医療や年金など社会保障費の財政負担の増大も大きな問題となっていることなどを、日本の社会保障制度の歩みや特色などに触れながら理解する。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
少子高齢社会に伴う課題について関心を持ち、積極的に解決策を考えようとしている。	少子高齢社会に伴う課題の解決策について考え、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	少子高齢社会に伴う課題に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。	少子高齢社会に伴う課題が国民経済・生活に大きな影響をおよぼすことを理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時のねらい、学習内容について知る。	○ 外部講師を活用する場合は講師を紹介する。	
展開 40分	○ 日本の人口、高齢化率・出生率の推移を理解する。 ○ 労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていること、医療や年金など社会保障費の財政負担の増大も大きな問題となっていることなどを理解する。 ○ 自分たちの問題として捉えるために、家族、介護、雇用、年金、医療など様々な面での影響を理解する。そのための解決策を考える。	○ 日本の人口・高齢化率・出生率の推移を説明し、将来起こるべき課題を考えさせる。 ○ 労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていること、医療や年金など社会保障費の財政負担の増大も大きな問題となっていることなどを、日本の社会保障制度の歩みや特色などに触れながら理解させる。	各種のデータを提示する。
まとめ 5分	○ 振り返りシートを記入する。 ○ 次時の課題を知る。 （各自で考えた解決策をグループごとに発表する。）	○ 次時の課題を説明する。 （少子高齢社会に伴う課題を家族、介護、雇用、年金、医療など様々な面から調べさせ、その解決のための方法について考えさせる。）	

5. 準備物

資料（資料編：国及び京都府の各種統計資料 P45～P52）

6. 授業実践のヒント

◎ 講師に講演を依頼する場合は、事前に講演内容について調整すること。

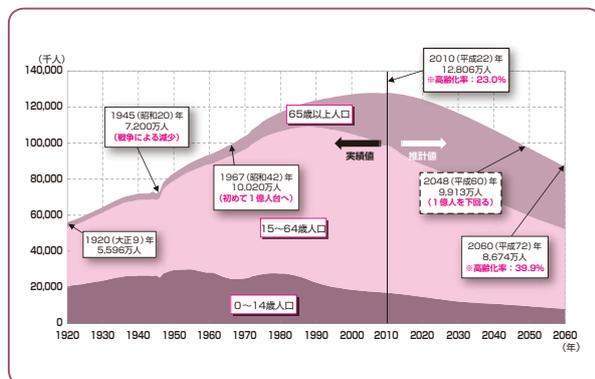
7. 連携機関＜問い合わせ先＞

連携先団体紹介 P55

● 特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西

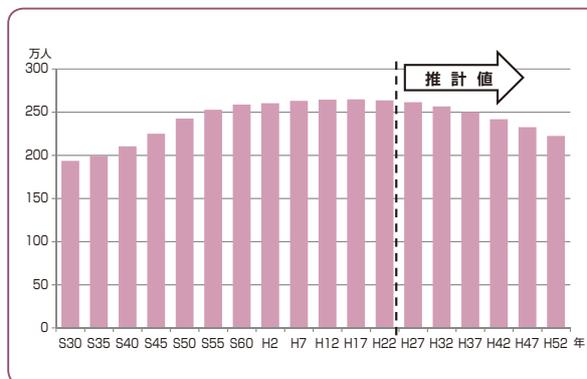
連携先連絡一覧 P60

「国の人口の推移」



（資料編：国の各種統計資料P45）

「京都府の人口の推移」



（資料編：京都府の各種統計資料P50）

家庭

総合
学習

LHR

子育て体験を聞く

～ いろいろな子育てステージの親による体験談 ～

1. 単元の目標

子どもの発達と生活において、親や家族のかかわり方や家族が果たす役割の重要性について認識させる。

2. 本時の目標

さまざまな子育てのステージにある親から直接話を聞き、親や家族のかかわり方や家族が果たす役割の重要性について考える。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
親の子に対する思いの深さに関心を持ち、学習に取り組もうとしている。	親子関係や家族の在り方について考え、まとめたリ発表したりしている。		

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時のねらいと学習内容について知る。	○ 講師を紹介する。	スクリーン、パソコン、配付資料などを準備
展開 35分	○ 子育て中または子育てを終えた親から、妊娠や出産の思い出や、子育てに関するエピソードなどの体験談を聞く。	○ 子育て環境や子育てのステージの違いによって、親子の関係や家族のかかわり方に違いがあることと、その重要性を理解させる。 ○ 必要に応じてワークシートを準備し、記入させる。 ○ 質疑応答を行う。	保護者による体験談 1人10分程度 3人による体験談
まとめ 10分	○ 体験談のまとめをワークシートに記入し、発表する。		

5. 準備物

【学 校】：パソコン（プレゼンテーションソフト）、スクリーン、講師用イス・テーブル

【外部講師】：説明スライド

6. 授業実践のヒント

- ◎ 子育て中の親、子育てを終えた世代の親など幅広い子育て経験者を講師に迎える。
- ◎ NPO 法人に依頼するときは、できるだけ家庭環境や子育て環境が異なる親に講師を依頼するとよい。
- ◎ 「子育てに関して講師に聞きたいこと」のアンケート調査を実施し、質問項目を講師に事前に見てもらおうとよい。

7. その他（講師例）

- 乳幼児を持つ保護者……………近所の保育園、幼稚園、児童館に相談する。
- 小・中学校の子どもを持つ保護者……………校区の小・中学校のPTA に相談する。
- 高校生以上の子どもを持つ保護者……………PTA や同窓会に相談する。
- 障害のある子どもの保護者……………近所の児童館、特別支援学校、障害のある子の親の会に相談する。
- 自治会
- 商工会
- 祖父母など
- 特定非営利活動法人 京都子育てネットワーク※ **連携先連絡一覧 P60**

※の団体紹介は P54 に掲載。



写真：京都府立洛東高等学校

家庭

公民

総合
学習

LHR

子育てについてみんなで語ろう

～ 親の気持ちと社会的支援 ～

1. 単元の目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。

2. 本時の目標

親の愛情を実感するとともに、様々な生き方・子育てのスタイルから、共に協力して家庭をつくることの意義や重要性について認識する。また、家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
親の子に対する思いの深さに関心を持ち、学習に取り組もうとしている。	親子関係や家族の在り方について考え、まとめたリ発表したりしている。		家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時の目的と内容を確認する。	○ 講師を紹介する。	進行役（教員または外部講師）
展開 35分	○ 様々な生き方や子育てへの考え方があり、ライフスタイルに応じて子育てのスタイルも様々であることを知る。 ○ 子育てにおける親の役割や家族の支えの必要性について考える。 ○ 家族・家庭の生活を支える福祉や様々な社会的支援について理解する。	○ パネリストの紹介とあいさつ。 ※パネリストの略歴や家族構成などをスクリーンに投映しながら、質問形式で簡単に紹介する。 ○ 親の役割や責任とともに、各ライフステージにどのような社会的支援が必要であるか認識させる。 ○ 必要に応じて質疑応答を行う。	パネリストによる体験談やディスカッション 行政担当者による説明
まとめ 10分	○ ワークシートに記入し、発表する。	○ 子育てに関する社会的支援について理解できたか確認する。 ○ 親と子の関係や家族の在り方について自分の考えをまとめさせる。	

5. 準備物

・パソコン ・プロジェクター ・スクリーン ・パネリスト用イス ・テーブル

6. 授業実践のヒント

- ◎ パネルディスカッションの進行役について教員がするのか外部講師に依頼するのかを、事前に調整しておく。
- ◎ 家庭環境や子育て環境、子育てステージが異なる複数の親に依頼するとよい。
- ◎ パネリストには事前に主な質問事項を知らせ、承諾を得ておくようにする。
(例) 就職を決めた理由・きっかけ、結婚を決めた理由・きっかけ、子どもが生まれた時の喜び、出産後の自身やパートナーの変化、パートナーの支え、子育てと仕事についての考え方、子育てで困ったこととその解決を助けてくれた人や社会的支援…など
- ◎ 子育てに関わる支援制度について行政担当者または教員から説明する。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

- | | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 福知山市健康推進課（福知山市中央保健福祉センター） ● 舞鶴市保健センター（健康づくり・地域医療課） ● 与謝野町保健課 ● 医療法人財団 足立病院※ ● NPO 法人 まちづくりサポートクラブ※ | } | 連携先連絡一覧 P58 |
| | | ♪ P59
♪ P60 |

※の団体紹介は P54 に掲載。

8. 参考資料（DVDの活用について P 77）



写真：子育て学習プログラム実践体験教室
＜平成 27 年 7 月 31 日（金）会場：舞鶴市赤れんがパークにて実施＞

家庭

保健
体育

総合
学習

LHR

仕事と育児の両立を考える

1. 単元の目標

家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて考えさせるとともに、家族の一員としての役割を果たし男女が協力して家庭を築き生活を営むことの重要性について認識させる。

2. 本時の目標

仕事と家庭生活のバランスの大切さや、男女が協力して生活を営むことの重要性や意義を理解する。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
仕事と家庭生活のバランスについて関心を持ち、積極的に考えようとしている。	男女が協力して生活を営むことや、自分自身の将来について考え、まとめたり発表したりしている。		男女が協力して家庭を築き生活を営むことの重要性について理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時のねらいと学習内容について知る。		スクリーン、パソコン、配付資料などを準備
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男女が協力して家庭を築き、生活を営むことの重要性を理解する。 ○ 子育てを支える様々な社会的支援があることを知る。 ○ 講演の後、講師に質問する。 <p>(展開によっては)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講演の後、グループに分かれて意見交流して発表し、自分以外の人の考えや意見を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理想のライフデザインを実現していくため、男女が協力して子育てをすることや、仕事や家事の分担などについて考えることで、自分自身の将来をイメージするよう指導する。 ○ 仕事と育児の両立を可能にするための工夫や社会的支援の数々を紹介する。 <p>講義内容例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男女が協力して子育てする意義について ・ 子育てが親自身の成長や人生の考え方に与える影響について ・ 子どもの成長、自分の将来をデザインする ・ ワークライフバランスとは など <p>(展開によっては)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 質疑応答 ○ グループディスカッション 	<p>外部講師または教員による講義</p> <p>スライドや配付資料を使い説明</p>
まとめ 5分	○ ワークシートに記入し発表する。		

5. 準備物

【学 校】：パソコン（プレゼンテーションソフト）、スクリーン

【外部講師】：説明スライド、配付資料

6. 授業実践のヒント

◎ 講師と事前に講義内容について調整しておくことが必要。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

<ul style="list-style-type: none"> ● 福知山市健康推進課（福知山市中央保健福祉センター） ● 舞鶴市保健センター（健康づくり・地域医療課） ● 与謝野町保健課 	}	連携先連絡一覧 P58
<ul style="list-style-type: none"> ● 日本年金機構京都南事務所 ● 京都府租税教育推進連絡協議会 ● 京都弁護士会 ● 一般社団法人全国銀行協会 [どこでも出張講座（講師派遣）] ※ 1 ● 特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会（日本FP協会）※ 2 ● 日本証券業協会 [金融リテラシー出前講座] ※ 3 	}	〃 P61
<ul style="list-style-type: none"> ● 京都大学男女共同参画推進本部 ※ 4 ● 特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西 ※ 5 	}	〃 P62 〃 P60

※ 1・2・5の団体紹介は P55、※ 3・4の団体紹介は P56 に掲載。



写真：子育て学習プログラム実践体験教室
 <平成 26 年 12 月 22 日（月）会場：マリアージュグランデにて実施>

家庭

ロールプレイを通してワークライフバランスを考える①
～ 家族になってみよう ～

1. 単元の目標

生涯発達の視点で青年期の課題を理解させ、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えさせるとともに、家庭や地域の生活を創造するために自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することが重要であることを認識させる。

2. 本時の目標

ロールプレイングによる擬似家族の体験を通して、子育てに関する様々な課題に気づき、課題解決のために家族の役割が大切であることを理解する。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
育児に関わる諸課題や家族の役割に関心を持ち、学習に取り組もうとしている。	子育てや家族の課題解決のために具体的な方策を考え、まとめたり発表したりしている。		

4. 展開例（時間：50分×2回程度）

〈1時間目〉

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時の目的と内容を確認する。	○ ロールプレイングの目的と方法について説明する。	
展開 40分	○ 台本の家族構成に合わせて数人のグループに分かれ、配役を決める。 ○ 台本を読み、台本の続きをグループ内で話し合う。 ○ 台本を完成させ、グループ内で演じてみる。必要に応じて台本を修正しながら進める。	○ 配役の性別にこだわらなくてもよい。 ○ 全員が必ず1つ以上のセリフがあるように指導する。 ○ 意見が出にくいグループや意見がまとまらないグループに適宜アドバイスする。	
まとめ 5分	○ 本時の内容を振り返る。	○ 次時の予告をする。	

〈2時間目〉

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 前時の振り返りと本時の目的・内容を確認する。	○ ロールプレイングの目的や演じる際の留意点などについて指導する。	
展開 35分	○ グループごとに発表する。 ○ 発表を聞いた生徒は、そのグループの台本について賛成か反対か、またその理由を考え、発表する。 ○ ロールプレイングによって擬似家族を体験しながら育児に関わる諸課題を知り、家族の役割、家庭と仕事の関わりなどを考える。	○ グループ数が多い場合は、結末が異なる数グループをいくつか指名し、発表させる。 ○ 発表後は、発表内容への賛否を問う。 賛否の意思表示方法の例 ①「賛成」「反対」カードを使う。 ②教室を左右に分け、賛成は右・反対は左へ移動する。 ③ワークシートに記入する。 ○ 数人の生徒に賛否の理由を発表させ、家族観は多様であることや、家族には様々なかたちがあることに気付かせる。	
まとめ 10分	○ 本時の内容を振り返る。 ○ ワークシートに記入し発表する。	○ 我が家だったらどうするか、家族と話題にしてみることもすすめる。	

5. 準備物

- ・ 台本（資料編：授業活用資料 P64、DVD の活用について P77）
- ・ 演技用の小物（エプロンやビジネスカバンなど、演技しやすい雰囲気づくりのため）
- ・ 賛否の意思表示用具（「賛成」「反対」カード、ワークシートなど）

6. 連携機関〈問い合わせ先〉

連携先団体紹介 P54

- 医療法人財団 足立病院
- NPO 法人 まちづくりサポートクラブ

連携先連絡一覧 P59

〳〳 P60



写真：子育て学習プログラム実践体験教室
〈平成 27 年 7 月 31 日（金）会場：舞鶴市赤れんがパークにて実施〉

プログラム **3-3**

【学習単位：クラス単位】

家庭 **ロールプレイを通してワークライフバランスを考える②**
～ グループで考えよう ～

1. 単元の目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。

2. 本時の目標

子どもの発達を支えるために男女が協力して子育てをしていくことの大切さをグループ学習を通して確認するとともに、子育てに関する様々な社会的支援があることを知り、その活用を考える。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
子どもの発達を支え、男女が協力して子育てする上での課題について、関心を持って最善の方策を考えようとしている。	課題に対して、最もよい方策は何かを考え、班の意見としてまとめ、発表している。		男女が協力して子育てをすることの大切さを理解するとともに、子育てに関する社会的支援があることを理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子どもの急な発熱のときどうするか」をテーマにグループ学習を確認する。 ○ 指名された3名の生徒が「子、母、父」の役となり、ワークシート1の場面①～③のセリフを読み、寸劇をする。 ○ 本時の課題をイメージする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1班4名程度。 ○ 自由に意見交流をさせるよう留意する。 	ワークシート1
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが急に体調を崩し保育園を休まなければならないときどうするかについて、ワークシート1の場面④に自分が考える解決策を記入する。 ○ 班内の他者の意見を聞き、ワークシート2に班の意見としてまとめる。 ○ 各班の意見を発表する。その際、ワークシート3に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この時点では、自分自身の意見のみを記入する。 ○ グループ学習に入る際に、班内での話し合いを進行する担当者と意見交流後に班の意見を発表する担当者を決めさせる。 ○ 発表した各班の意見を板書する。 	ワークシート1の④ ワークシート2 ワークシート3

	学習活動	指導上の留意点	備考
展開	<p>○ 各班の意見を参考に、解決策を見直す。下記の点をふまえ、再度班内で討論し、最も望ましい解決策を考える。その際、ワークシート4に記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夫と妻のどちらかに負担がかかりすぎていないか。 ・ 次回も同様の解決策が通用するか。 ・ どのような社会的支援が必要か。 </div> <p>○ 各班の最も望ましい解決策を発表する。</p>	<p>○ 班内での討論の内容については、出た意見すべてを「グループ討論メモ」欄に記入させ、再度、最も望ましい解決策を考えさせ、発表させる。</p> <p>○ 発表した各班の意見を板書する。</p>	ワークシート4
まとめ10分	<p>○ 各班から出た最も望ましい解決策について、板書を見ながら、考える。</p> <p>○ 子育てに関する社会的支援を知る。</p>	<p>○ 子育ては、父母だけで行うものではなく、社会的支援の利用も含め、社会全体で子育てするという視点をもたせる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護休暇 ・ 病児・病後児保育 ・ ファミリーサポートセンター など 	ワークシート5

5. 準備物

ワークシート（資料編：授業活用資料 P65）



写真：京都市立菟道高等学校

家庭

商業

福祉

総合
学習

LHR

社会の現状を知りライフデザインを描く
～ 自分の未来予想図を描こう ～

1. 単元の目標

将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解させ、学習した内容とかわらせて自分の目指すライフスタイルを実現するために、生活を設計できるようにする。

2. 本時の目標

自分の将来について、就きたい職業、結婚・家庭、子ども、両親の老後のことなどを実際に書き出してみることで、自分の結婚観や人生観を考えていくきっかけとする。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分の生活設計について関心を持ち、積極的に考えようとしている。	生活設計を考える上で大切な事柄は何かについて考え、自分なりに表現している。	自分のライフデザインを描くことができる。	自分の将来の生活について自分で展望をもって考えることの大切さについて理解している。

4. 展開例（時間：100分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時のねらい、学習内容について知る。	○ 外部の講師を招いた場合は、講師を紹介する。	
展開 【前半】 45分	○ ライフデザインを考えることが、自らの将来を主体的に創造することにつながることを理解する。 ○ 日本の少子化の現状や、出産や子育て環境等に関する課題について理解する。	○ 自らの将来を主体性と創造性をもって設計し、積極的に実現させていくことの大切さを理解できるようにする。 講義内容例 ・ 日本の少子高齢化の現状 ・ 日本の結婚・出産についての現状 ・ 日本人の働き方についての現状 ・ 日本人男性の家事労働時間の現状 ・ 日本と外国の少子化対策の違い ・ 女性の活躍推進に必要なこと ・ 自分で調べて考えて将来設計することの大切さ など	外部講師または教員による講義 スライドや配付資料を使い説明 具体的なデータを交えながら少子化の現状を説明できれば、効果的である。
展開 【後半】 40分	○ 自分の就きたい職業、結婚、子ども、住居、老後など、生涯にわたる計画をライフデザインシートに記入する。	○ ライフデザインシート記入方法について説明する。 ○ 実現するための準備や必要な条件なども考えながら記入するよう指導する。	ライフデザインシート

	学習活動	指導上の留意点	備考
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の書いたライフデザインを全体またはグループ内で発表する。 ○ 自分の将来を描いてみてどのように感じたかライフデザインシートに記入する。 		

5. 準備物

【学 校】：パソコン（プレゼンテーションソフト）、スクリーン、ライフデザインシート（資料編：授業活用資料 P66）

【外部講師】：説明スライド、配付資料

6. 授業実践のヒント

◎講師により講義内容が異なるため、事前にどのような内容かを確認し、調整しておくことが必要。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

- 京都府金融広報委員会（事務局：日本銀行京都支店）
- 日本年金機構京都南事務所
- 京都府租税教育推進連絡協議会
- 京都弁護士会
- 一般社団法人全国銀行協会〔どこでも出張講座（講師派遣）〕※ 1
- 特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会（日本FP協会）※ 2
- 日本証券業協会〔金融リテラシー出前講座〕※ 3
- 特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西※ 4

連携先連絡一覧 P61

〃 P60

※ 1・2・4 の団体紹介は P55、※ 3 の団体紹介は P56 に掲載。



写真：子育て学習プログラム実践体験教室
 <平成 26 年 12 月 22 日（月）会場：マリアージュグランデにて実施>

プログラム **4-2**

【学習単位：学年またはクラス】

家庭

商業

総合
学習

LHR

生涯の経済計画をもとにライフデザインを描く
～ 家計管理の基礎を学び、ライフプランを考えよう ～

1. 単元の目標

将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解させる。また、家計管理の基礎を学び、それを生かして自分の目指すライフスタイルを実現するために、生活を設計できるようにする。

2. 本時の目標

家計管理の基礎を学び、ライフプランを実際に書き出してみることで、自分の結婚観や人生観を考えていくきっかけとする。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分の将来の生活設計について関心を持ち、積極的に考えようとしている。		自分のライフデザインシートを描いている。	自分の将来について自分で考えることの大切さについて理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ お金に関するクイズに答える。		スクリーン、パソコン、資料配付
展開 40分	○ 家計管理の重要性や家計と経済のかかりについて理解する。 ○ ライフプランを以下の点に注意しながら考える。 ・ 夢を描いてみよう ・ 目標の設定 ・ ライフプランの意義 ・ 家計管理の必要性 ・ 貯蓄のポイント ○ ライフデザインシートを作成する。	○ 家計の構造、収支バランスや計画性、将来にわたるリスクも想定させる。 ○ 夢、目標を自由に考えさせる。 ○ 家計管理の目的は、夢や目標を実現するためと、もうひとつは将来のリスクへの備えであることを伝える。 ○ 一度だけの作成ではなく、定期的に自分の将来を見直しながら、何度も作成することも大事であることを理解させる。	説明スライドを使用
まとめ 5分	○ ライフデザインシートの発表（時間があれば）	○ 自分の生涯を見通した生活における経済の管理や計画について、自分で主体的に考えることの大切さについて理解させる。	

5. 準備物

【学 校】：スクリーン、プロジェクター、ライフデザインシート（資料編：授業活用資料 P66）

【外部講師】：説明スライド、配付資料、パソコン（プレゼンテーションソフト）

6. 連携機関＜問い合わせ先＞

- 京都府金融広報委員会（事務局：日本銀行京都支店）
- 日本年金機構京都南事務所
- 京都府租税教育推進連絡協議会
- 京都弁護士会
- 一般社団法人全国銀行協会〔どこでも出張講座（講師派遣）〕※1
- 特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会（日本FP協会）※2
- 日本証券業協会〔金融リテラシー出前講座〕※3
- ソニー生命保険株式会社 広報部 ※4

連携先連絡一覧 P61

※1・2の団体紹介は P55、※3・4の団体紹介は P56 に掲載。



写真：京都府立京都すばる高等学校

商業

家庭

総合
学習

LHR

金融面からライフデザインを描く ～ ライフプランニングについて ～

1. 単元の目標

主体的に課題を探究し、課題の解決を図る学習を通して、自ら課題を発見して解決する能力や生涯にわたって自発的、創造的に学習に取り組む態度を育てる。

2. 本時の目標

生徒が自らの進路希望などに応じた適切な課題を設定し、将来の職業を見通した学習を通して、人生設計能力を身に付ける。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分の進路に関する課題を自ら進んで設定し、課題解決しようとしている。	自分の人生設計について、様々な視点から捉え、自己の考えを適切に表現している。	人生設計に関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り整理している。	

4. 展開例（時間：100分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時のねらい、学習内容について知る。	○ 外部の講師を招いた場合は、講師を紹介する。	ワークシート
展開 【前半】 45分	○ 「人生設計（ライフプラン）」について定義を理解する。 ○ 自分の将来の進路を考えながら、ワークシート(1)に記入する。 ○ 前後の生徒と意見交換をする。 ○ 自分について客観的に分析しながら、ワークシート(2)に記入し、自己の課題を理解する。 ○ グループ内で意見交換をする。	○ 教室のスクリーンに、重要事項を提示しながら、「人生設計（ライフプラン）」についての定義を理解させる。 ○ ワークシート(1)を利用して意見交換するように指導する。 ○ 生徒自身の長所と短所を考えさせ、自己分析を行うことにより自らの課題に気付かせる。 ○ ワークシート(2)を利用して意見交換するように指導する。	

	学習活動	指導上の留意点	備考
展開【後半】40分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の人生設計を1・10年後で考え、ワークシート(3)に記入し、進路実現に関する課題を知る。 ○ 各グループの意見を発表する。 ○ 様々な意見を聞き、多様な考え方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な意見をもとに自分の人生設計を考えさせ、ワークシートに記入することにより進路実現に関する課題を理解させる。 ○ グループごとに発表させる。 ○ グループ内で気付いたことをまとめる。 	
まとめ10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の内容を振り返る。 		

5. 準備物

- ・教材提示できるもの(可能であればパソコン・スクリーン)
- ・ワークシート **(資料編：授業活用資料 P67)**

6. 授業実践のヒント

- ◎ 外部講師を迎える場合は、事前に単元内容の打合せと講義内容の調整を行う。

7. 連携機関<問い合わせ先>

連携先団体紹介 P56

- ソニー生命保険株式会社 広報部 **連携先連絡一覧 P61**



写真：京都府立京都すばる高等学校

家庭

商業

福祉

総合
学習

LHR

未来のライフデザインを描く
～ 自分の将来を想像してみよう ～

1. 単元の目標

生涯を見通した自己の生活について考えさせるとともに、主体的に生活を設計できるようにする。

2. 本時の目標

自分の将来を想像する中で、結婚・出産・子育てや仕事について考え、自分の人生観や家族観を形成していくきっかけとする。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
自分の生活設計について関心を持ち、積極的に考えようとしている。	生活設計を考える上で大切な事柄は何かについて考え、自分なりに表現している。	自分のライフデザインを描くことができる。	自分の将来の生活について自分で展望をもって考えることの大切さについて理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時の目的と内容を確認する。	○ ワークシート（未来マップと人生イベントカード）を配付し、作成方法を説明する。	
展開 35分	○ 就職、結婚、出産、子育てなど、するかしないかも含めて、人生イベントカードを並べながら考える。必要に応じて、白紙カードに自分でイベントを記入する。 ○ カード配置が決まったらのり付けし、コメント欄に理由やその時の状況などを自由に記述する。	○ 今まで学んだり、考えたりしたことを前提に将来を見通した設計ができるように指導する。 ○ 人生イベントカードの代わりに付箋でも可 ○ 生徒の作った多様な生活設計を、ICT等を活用して、プライバシーに配慮して紹介する。	
まとめ 10分	○ 本時の内容を振り返る。 ○ 本時の学習を通して考えたことや感想を書き、発表する。	○ シート作成を通じて考えたことを書くよう指導する。 ○ 生涯を見通した生活設計ができたか確認する。	

5. 準備物

- ・記入シート（未来マップ・人生イベントカード）（資料編：授業活用資料 P68）
- ・はさみ ・のり ・付箋

6. 授業実践のヒント

- ◎ これまでの一連のプログラムなど、様々な体験や考える機会を得た上での実施が望ましい。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞ 連携先団体紹介 P54

- 医療法人財団 足立病院 連携先連絡一覧 P59
- NPO 法人 まちづくりサポートクラブ 〃 P60

8. 参考資料（DVDの活用について P 77）



写真：子育て学習プログラム実践体験教室
 ＜平成 27 年 7 月 31 日（金）会場：舞鶴市赤れんがパークにて実施＞

2章 子どもを育てる

プログラム

5

【学習単位：学年またはクラス】

保健
体育

結婚生活から健康を考える

～ 健康な結婚生活とは ～

1. 単元の目標

- ・結婚生活と健康について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
- ・結婚生活と健康について、学習したことを事例と比較したり、分析したりしながら、筋道を立てて説明することができるようにする。
- ・結婚生活と健康について、自他の健康管理及び環境づくりが関わることについて理解できるようにする。

2. 本時の目標

健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から考え、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援が必要なことを理解できるようにする。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
結婚生活と健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	結婚生活と健康について、資料等をもとに、課題を見つけたり、整理したり、自分の考えを導き出したりして、それらを説明している。	結婚生活を健康に過ごすには、健康管理や環境づくりが重要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時の流れと学習内容を確認する。	○ 結婚生活と健康について、保健的立場から学ぶことを説明する。 ○ 外部の講師を招いた場合は、講師を紹介する。	
展開 40分	○ 「結婚の概念・意義」について、理解する。 ○ 「心身の発達が結婚生活の基盤となる理由」を考え、ワークシートに自分の意見を記入する。 ○ グループで意見交換をする。 ○ グループの意見を発表する。	○ 教室のスクリーンに重要事項を提示しながら、「結婚の概念・意義」について、理解させる。 ○ 「年齢別にみた自然死産率」等の資料を準備し、活用する。 ○ グループでの意見交換により、自分と周囲の考えの共通点や相違点に気付かせる。 ○ グループの人数は3～4名とし、意見交換が活発になるようにする。 ○ 意見交換時には、互いの意見を尊重する態度をもたせる。 ○ 発表で出た意見を、整理して板書し、理解を深めさせる。	必要に応じて養護教諭や助産師（外部講師）等に協力を依頼する。 指導者は机間指導を行い、必要に応じて助言する。

	学習活動	指導上の留意点	備考
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 結婚生活を健康に過ごすためには、どのような環境、配慮、支援等が必要かを考え、ワークシートに自分の意見を記入する。 ○ グループで意見交換をする。 ○ グループの意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「親の喫煙習慣と子どもの喫煙率との関係」、「DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談件数の推移」等の資料を準備し、活用する。 ○ 発表では、必要と考えた理由もあわせて発表させる。 	
まとめ5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表された主な意見とそれに対する自分の考えをワークシートに記入する。 ○ 次時の内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時の学習内容「妊娠・出産と健康」を伝える。 	ワークシートは次時まで点検し、その指導につなげる。

5. 準備物

教材提示できるもの（パソコン・スクリーン等）

6. 授業実践のヒント

◎ 養護教諭や外部講師等に指導の協力を依頼する場合は、事前に指導内容の調整を行う。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞ 連携先団体紹介 P53

● 公益社団法人 京都府助産師会 連携先連絡一覧 P59

家庭

保健
体育

総合
学習

LHR

妊婦体験をしてみよう

～ 家族や社会に何ができるか考えよう ～

1. 単元の目標

親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生み育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。

2. 本時の目標

妊婦を体感的に学ぶことを通して、子どもを生み育てることの意義について考えるとともに、子どもの健やかな成長のための家族や社会の果たす役割について認識する。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
子どもの成長と、家族や社会の役割に関心を持ち、学習に取り組んでいる。	子どもの健やかな成長のための家族や社会の果たす役割について考え、表現している。		子どもの健やかな成長のための家族や社会の果たす役割について理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 妊婦疑似体験スーツの着用の目的や方法について理解する。	○ 安全かつ円滑に疑似体験が進められるように説明を行うとともに、体験の視点を理解させる。 ○ 疑似体験スーツ装着方法について、実演指導で説明を行う。 ○ ワークシートを持って、それぞれの体験場所に移動させる。	グループごとに着席 妊婦疑似体験スーツを1グループに2セット準備する。 ワークシート配付
展開 40分	○ グループごとに妊婦疑似体験に取り組む。 ○ 妊娠中の身体や行動の状況を理解することを通して、子どもの健やかな成長のため、家族や社会が配慮したり、援助することを具体的に考える。 ○ 疑似体験後のまとめをワークシートに記入する。	○ 体験の例(何ヶ所かの体験場所に分ける) ・イスや床への立ち座り ・カーペット上で横になったり起き上がったたりする。 ・階段の昇降 ・手荷物を持ち上げたり、持って歩行したりする。 ○ 安全面に注意させる。 ○ 適切な体験活動となるように、助言を行う。	時間を決めて体験場所を移動させる。 グループごとに着席
まとめ 5分	○ 体験学習を通して考えたことと、感想を発表する。		

5. 準備物

【学校】：妊婦疑似体験スーツ、体験で使用するイス、カーペット、カバンなど

【生徒】：筆記用具

6. 授業実践のヒント

- ◎ 妊婦疑似体験スーツは、市役所等より借用することもできる。
- ◎ 事前・事後にDVD「小さな生の詩 LIFE BEFORE LIFE」を視聴
- ◎ プログラム6-2『妊婦とふれあい胎児の様子を知ろう』とセットで実践するとより効果的である。
- ◎ 教室の外で実施する時は、T・Tの教員がサポートする。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

	連携先連絡一覧 P57	
● 京都府内の保健所		
● 京都市保健所 (保健センター / 健康づくり推進課 母子・精神保健担当 支所 / 健康づくり推進室)	〳	P57
● 公益社団法人 京都府助産師会※	〳	P59

※の団体紹介は P53 に掲載。



写真：京都府立京都八幡高等学校

家庭

保健
体育

総合
学習

LHR

妊婦とふれあい胎児の様子を知ろう

～ エコーと心音で胎児の命を実感 ～

1. 単元の目標

親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生み育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。

2. 本時の目標

妊娠中の親と交流し、胎児の様子を知るなどの体験的な学習活動を通して、子どもの発達を支えるための親の役割や、家族及び社会の果たす役割について認識する。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
胎児の発達や、子どもの成長と家族・社会の役割に関心を持ち、学習に取り組んでいる。	子どもの健やかな成長のための家族や社会の果たす役割について考え、表現している。		子どもの健やかな成長のための家族や社会の果たす役割について理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手洗い・消毒をし、身だしなみを整える。 ○ 諸注意を聞き、妊婦と交流する際の諸注意をしっかりと確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 妊婦と交流する上での注意事項を説明する。 ○ 事故防止には十分注意するよう指導する。 ※ 妊婦の人数に応じて、数名ずつのグループに分かれる。 	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループに分かれ、自己紹介する。 ○ 妊婦が持参したエコー写真を見ながら、胎児が今どれくらいの成長過程にあるかなど、妊婦から話を聴く。 ○ 妊婦のお腹にドップラー心拍計を当ててもらい、胎児の心音を聞き子どもの成長を実感する。 ○ 妊婦に質問するなど、交流を通して妊婦から妊娠中の喜び・苦労話や生まれてくる子どもへの期待などの話を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命の尊さと親になる責任を感じ、妊婦との交流に当たっての知識と心構えが理解できるようにする。 ○ 胎児がお腹の中で成長し、小さな受精卵から徐々に人間らしく育っていく過程を理解させる。 ○ 子どもの発達のための親や家族の役割について考えさせる。 ○ 妊婦から直接話を聞くことで、子どもの健やかな成長のための家族や社会の果たす役割について認識させる。 ○ 可能な場合は、妊婦のお腹に手を当てさせてもらう。 	助産師の指導により進行
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに記入して発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 妊婦との交流を通して考えたこと、認識したことその他に、印象に残ったことや、胎児の成長について考えたことを書くよう指導する。 	教員による指導

5. 準備物

【学校】：妊婦用イス、カーペット（必要に応じて）、胎児人形、バスタオルやひざかけ（必要に応じて）

【NPO】：ドップラー心拍計

【妊婦】：妊婦に胎児のエコー写真の持参を依頼

6. 授業実践のヒント

- ◎ 胎児の心音を聞かせていただくための準備（※妊婦さんに許可を取ること）
ドップラー心拍計・・・精密機械なので持ち出しができない場合があるので確認が必要
- ◎ プログラム 6-1「妊婦体験をしてみよう」とセットで実践するとより効果的である。
- ◎ 参加生徒への事前の体調管理を指導する。
- ◎ 必要に応じてカーペットやフロアマットを敷く。
- ◎ 生徒には妊婦さんへの質問を考えさせておく。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

● 京都府内の保健所		連携先連絡一覧 P57
● 京都市保健所 （保健センター / 健康づくり推進課 母子・精神保健担当 支所 / 健康づくり推進室）	〃	P57
● 綾部市保健推進課（綾部市保健福祉センター）	}	〃 P58
● 福知山市健康推進課（福知山市中央保健福祉センター）		
● 舞鶴市保健センター（健康づくり・地域医療課）		
● 与謝野町保健課		
● 児童館		
● 公益社団法人 京都府助産師会※ 1	〃	P59
● 特定非営利活動法人 京都子育てネットワーク※ 2	〃	P60

※ 1 の団体紹介は P53、※ 2 の団体紹介は P54 に掲載。



写真：京都府立京都八幡高等学校

プログラム **6-3**

DVD

【学習単位：学年またはクラス】

家庭 保健体育 **子育てっていつから始まるか考えてみよう**
～ 親子のきずなって何だろう? ～

1. 単元の目標

乳幼児期は、その発達段階に応じた親の働きかけが重要であることを理解させる。また、親や家族のかかわり方や家庭生活が果たす役割の重要性について認識させる。

2. 本時の目標

乳幼児期の親とのかかわりによる愛着の形成は、将来の人間関係の基礎となることを理解する。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
乳幼児期の親とのかかわり方に関心を持ち、学習に取り組んでいる。	乳幼児期のかかわり方や愛着の形成について考え、まとめたり発表したりしている。		乳幼児期の愛着の形成について理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時の目的と内容を確認する。	○ 講師の紹介とともに、助産師という職業についても簡単に説明する。	教員による指導
展開 35分	○ 出産や子育てについてどんなイメージを持っているのか、自分なりに考える。 ○ 受精卵から出産までの胎児の成長について話を聴く。 ○ 3・6・9カ月の胎児人形や新生児人形にふれながら、子どもの成長をイメージする。 ○ 妊婦や子育て中の母親・父親のインタビュー映像などを視聴し、親と子の間の愛着の形成を知る。	○ 子どもを欲しいと思うか、出産や子育てはどんなイメージか、子育てはいつから始まると思うかななどを質問しながら、本時のテーマへの興味を喚起する。 ○ 心臓が鼓動を打ち出す時期、感覚器官が働き出す時期など、胎児から新生児期の成長過程を理解させ、命のかけがえのなさを感じさせる。 「妊婦の参加がある時」 ○ 妊婦の参加が可能なら、子どもへの思いや愛情を聞き出しながら進行する。ドップラー心拍計で胎児の心音を聞かせる。生徒から質問もさせる。 ○ 子育てはいつから始まるのか、親子のきずなはどうやってつくられるのかを考えさせる。	助産師の指導により進行 可能であれば、助産師の協力を得て妊婦さんに参加していただき、生徒との交流を図ることで、より理解を深めたい。

	学習活動	指導上の留意点	備考
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の内容を振り返る。 ○ 本時の学習を通して考えたことや感想を書き、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 愛着の形成について分かったこと、子どもの成長や母親・父親の気持ちについて感じたこと、考えたことを書くよう指導する。 ○ 乳児期の愛着形成について理解することができたか確認する。 	

5. 準備物

- ・胎児人形（3・6・9カ月） ・新生児人形 ・パソコン ・プロジェクター（要スピーカー）
- ・スクリーン
- ・映像資料（妊婦へのインタビュー、妊婦検診の様子、出産直後の親へのインタビュー）
- ・ドップラー心拍計（必要に応じて）

6. 授業実践のヒント

- ◎ 講師とは事前に講義内容について調整が必要。
- ◎ 妊婦が参加できる場合は、参加人数に合わせた講義内容の調整も必要。（全体学習かグループ学習か等）

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

- | | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 公益社団法人 京都府助産師会※1 ● 医療法人財団 足立病院※2 | } | 連携先連絡一覧 P59 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 神原 祐美 氏
（助産師・明治国際医療大学非常勤講師、京都府助産師会所属） ● みき助産院（京都府助産師会所属） ● ひとみ助産院（京都府助産師会所属） | } | 〃 P60 |

※1の団体紹介はP53、※2の団体紹介はP54に掲載。

8. 参考資料（DVDの活用についてP77・78）

- 映像資料「新生児ルームの様子」
- 映像資料「結婚のきっかけ」



写真：子育て学習プログラム実践体験教室
＜平成27年7月31日（金）会場：舞鶴市赤れんがパークにて実施＞

家庭

赤ちゃんになってみよう

～ 赤ちゃん疑似体験から赤ちゃんの気持ちを考える ～

1. 単元の目標

子どもの発達と生活、子どもの福祉などについて理解させ、親の役割と保育の重要性や地域及び社会の果たす役割について認識させるとともに、子どもを生み育てることの意義や子どもとかわるくかわるることの重要性について考えさせる。

2. 本時の目標

乳幼児の発育・発達のプロセスをイメージすることを通して、乳幼児期は人間の発達段階において重要な時期であることや、子どもの発育・発達には、個人差はあるが一定の順序と共通性があることを理解する。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
乳幼児の発育・発達のプロセスに関心を持って意欲的に学習に取り組んでいる。			子どもの発育・発達には一定の順序と共通性があることを理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時の目的と内容を確認する。	○ 外部講師を呼んだ場合は、講師を紹介する。	
展開 40分	○ 映像を視聴し、乳児の発達の様子を知る。 ○ 準備体操で体をほぐす。 ○ 出産時から各発達段階における赤ちゃんの姿を真似ながら、赤ちゃんが見ている（感じている）世界を体験する。 例：胎児ポーズ→産道の通過→仰向け・この時期の赤ちゃんのしぐさ→寝返り・腹ばい→ずりばい・旋回→四つんばい・ハイハイ→お座り→立つ→よちよち歩き（詳細はP.69「参考資料」） ○ 時間に余裕がある場合は、赤ちゃん役と声をかける親役のペアを作り、交代してもよい。	○ 乳児ならではの不安や喜びを実感させる。 ○ 乳幼児の発育・発達には、一定の順序と共通性があることを理解させる。 ○ 二人一組で、片方の生徒に親役として声掛けをさせてもよい。 ○ 乳児の気持ちを想像し、寄り添いながらお世話することの大切さを理解させる。	講師の指導により進行（教員による指導も可能）

	学習活動	指導上の留意点	備考
まとめ5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の内容を振り返る。 ○ 本時の学習を通して感じたこと、考えたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 赤ちゃんの世界を体験して、初めてわかったことや驚いたこと、親の役割について感じたことなどを発表するよう指導する。 ○ 乳幼児期の発達について理解できたか確認する。 	

5. 準備物

- ・映像資料（乳児の発達の様子を追いかけた動画）
- ・赤ちゃんの姿の例（資料編：授業活用資料 P69）
- ・床に寝そべることができる教室、カーペット（必要に応じて）
- ・BGM

6. 連携機関＜問い合わせ先＞ 連携先団体紹介 P54

- 医療法人財団 足立病院 **連携先連絡一覧 P59**

7. 参考資料（DVDの活用についてP77・78）

映像資料「Growing up すーちゃん↑」
「赤ちゃんの姿の例」



写真：子育て学習プログラム実践体験教室
＜平成27年7月31日（金）会場：舞鶴市赤れんがパークにて実施＞

家庭

沐浴とおむつ交換体験

～ 新生児人形を使って学ぶ ～

1. 単元の目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせる。

2. 本時の目標

新生児の特徴や、沐浴・おむつ交換の仕方を知り、乳幼児とのかかわり方を考える。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
赤ちゃんの発育・発達に関心を持ちながら、沐浴とおむつ交換体験に取り組んでいる。		赤ちゃんに対して適切に沐浴とおむつ交換ができる。	沐浴の意味や、おむつの役割、乳幼児とのかかわり方について理解している。

4. 展開例（時間：100分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 10分	○ 数名ずつのグループに分かれ、沐浴、おむつ交換、着替えの準備をする。	○ 生徒には助産師または教員の指導のもと、体験学習の準備をさせる。	
展開 70分	○ 沐浴の仕方、おむつ交換の方法について知る。 ○ 助産師を手本に、一人ずつ新生児人形を使っての沐浴体験を行う。 ・ ベビーバスにお湯を張る→温度を計る。 ・ 沐浴布にくるんで新生児人形をバスへ入れる。 ・ 顔→頭→体→おしりを洗う。 ○ 沐浴が終わったら、新生児人形のおむつを替える体験を行う。 ○ 他の生徒は体験中の生徒と教え合いながら観察する。 ○ 体験する生徒を交代する。 (以下、繰り返し全員が体験する)	○ 助産師または教員が、新生児人形を使って、実際にやってみせながら、乳幼児とかわる上での大切な点を理解させる。 ○ 沐浴は体をきれいにするだけでなく、血液の循環や新陳代謝を高める効果があり、また親子の楽しいスキンシップの時間でもあることを理解させる。 ○ 一人ずつ全員が体験できるよう指導する。 ○ 衣服の脱がせ方、赤ちゃんの頭の支え方、ガーゼのかけ方、体の拭き方など、基本的な動作ができているかどうかを観察する。 ○ 紙おむつと布おむつそれぞれに長所と短所があることを理解させる。 ○ 実際の赤ちゃんとかかわる時にはより一層の工夫と注意が必要であることを理解させる。	紙おむつと布おむつの両方を用意

	学習活動	指導上の留意点	備考
展開		○ 学習時間や体験人数によっては、沐浴体験とおむつ交換体験を同時並行で実施し、時間の短縮を図る。	
まとめ 20分	○ 今日の学習を通して考えたことや感想を書き、発表する。 ○ 後片づけを行う。		

5. 準備物

- ・ 新生児人形 ・ ベビーバス ・ 洗面器 ・ 湯温計
- ・ 石けん ・ 沐浴布 ・ ガーゼ ・ おむつ（紙おむつ、布おむつ）
- ・ ビニールシート ・ イス ・ テーブル

6. 授業実践のヒント

- ◎ 保健所に出向いて実践する方法もある。保健所の公的機関としての役割について理解を深めることができる。（母子保健事業ほか）

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

連携先	連携先連絡一覧	ページ
● 京都府内の保健所		P57
● 京都市保健所 （保健センター / 健康づくり推進課 母子・精神保健担当 支所 / 健康づくり推進室）	〃	P57
● 綾部市保健推進課（綾部市保健福祉センター）	}	P58
● 福知山市健康推進課（福知山市中央保健福祉センター）		
● 舞鶴市保健センター（健康づくり・地域医療課）		
● 与謝野町保健課	〃	P59
● 公益社団法人 京都府助産師会※	〃	P59

※の団体紹介は P53 に掲載。



写真：子育て学習プログラム実践体験教室
＜平成 26 年 12 月 22 日（月）会場：マリアージュグランデにて実施＞

家庭

だっことお世話体験

～ 新生児人形を使って学ぶ ～

1. 単元の目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせる。

2. 本時の目標

新生児人形を使ってだっこやおむつ交換、更衣を体験し、乳児を愛おしく思う気持ちや、適切に養護することの大切さを理解する。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
新生児人形を大切に扱いながら、だっこやおむつ交換、服の着せ替えに積極的に取り組もうとしている。	実習を通して赤ちゃんを養護する際に気をつけなければならないことについて考え、まとめることができる。	新生児の身体の特徴を理解し、だっこやおむつ交換、服の着せ替えをすることができる。	新生児の身体の特徴を理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	○ 本時のねらいを確認する。		
展開 35分	○ 新生児人形の扱いの注意を知る。 ○ 実習の手順を理解する。 ○ 各班で新生児人形に名前をつける。実習は名前を呼びかけながら世話をする。 ○ 新生児人形を使って、だっこやおむつ交換、更衣を体験する。1人ずつ交代して、全員が行う。 ・ だっこをして、教室内を1周歩く。 ・ おむつの取り替え ・ 衣服を脱がせる、着せる。	○ 首がすわっていないなど新生児の身体の特徴を理解して、新生児人形で実習させる。 ○ 一通りの手順を新生児人形を使って説明する。 ○ 新生児人形を各班1名が迎えに行く。大切に扱うよう指導しながら渡す。 ○ 手順の全てを、必ず全員が行うように指導する。1人の生徒が実習をしている間、他の生徒は、スムーズに実習が進むよう手伝うように指導する。	バスタオルをベビー布団代わりにする。新生児人形は必ずバスタオルの上に寝かせるようにする。 1班4～5名。
まとめ 10分	○ まとめを記入する。	○ だっこ、おむつの取り替え、衣服の着脱のそれぞれについて、実習を通して感じたこと、気を付けなければならないことをワークシートにまとめるように指導する。	

5. 準備物

- ・ 新生児人形（班に1体（1班4～5人））※それぞれ、紙おむつ、短肌着、ベビーウエアを身に付けている。
- ・ ベビー布団（教卓用）※なければバスタオルや座布団で代用可
- ・ バスタオル ※新生児人形のおくるみ用、また、実習中は机上に広げ、ベビー布団代わりとして使用する。
- ・ 紙おむつ（数枚）※新生児人形は紙おむつを身に付けており、再利用するが、テープの粘着力が弱くなったときの予備用
- ・ ワークシート（資料編：授業活用資料 P70）



写真：京都府立菟道高等学校

プログラム **9**

【学習単位：クラス】

家庭 **赤ちゃんとおふれあう**
～ 赤ちゃんをだっこしてみよう！ ～

1. 単元の目標

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解させ、子どもを生き育てることの意義を考えさせる。

2. 本時の目標

赤ちゃんやその親等とおふれあうことで、乳幼児の心身の発達と生活、親の役割、子どもの育つ環境について考えを深め、赤ちゃんと適切にかかわることができるようにする。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
乳幼児の発達に関心を持ち、赤ちゃん積極的にかかわろうとしている。	乳幼児の心身の発達と親や周囲の人とのかかわりについて考えている。		

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手洗い・消毒を行い、身だしなみを整える。 ○ 赤ちゃんとかかわる際の諸注意をしっかりと確認する。 ※ 赤ちゃんの人数に応じて、数名ずつのグループに分かれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 赤ちゃんとかかわる上での注意事項を確認する。 ○ 事故防止には十分注意するよう指導する。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参加者と生徒がお互いに自己紹介をする。 ○ 赤ちゃんの名前を聞く。 ○ 徐々に赤ちゃんに触れていきながら、赤ちゃんを抱く、おんぶするなど、肌を通して赤ちゃんのぬくもりを体験する。 ○ 親から子どもの発達や生活に関して具体的な話を聞く。離乳食や、おやつなどの様子も見せていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ タックシールに名前を書いて赤ちゃんの背中に貼ってもらっておく。 ○ 赤ちゃんになじめない生徒や戸惑っている生徒がいれば、声をかけて参加を促す。 ○ 歌を歌いながら赤ちゃんに声をかけるなど、赤ちゃん徐々に慣れていくよう指導する。 ○ 生徒には、積極的に、また、赤ちゃんの様子をよく観察しながらおふれあうように指導する。 ○ 生徒には、積極的に親と会話するよう指導する。 ○ 赤ちゃんや生徒の様子を観察し、必要に応じて、安全面・衛生面に配慮するように指導する。 ○ 可能であれば、生まれたばかりの頃の赤ちゃんの写真なども持参いただく。 	<p>NPO等の指導により進行</p> <p>グループに1名の赤ちゃんと母親を配置</p>

	学習活動	指導上の留意点	備考
展開	○ 生徒から、今日の体験の感謝と感想を述べる。	○ 感謝の気持ちを交えながら、赤ちゃんとのふれあってよかったこと、わかったことなど感想を述べるよう指導する。	
まとめ10分	○ 今日の体験のまとめを行う。	○ 赤ちゃんとのふれあい体験を通して、印象に残ったことや、赤ちゃんと親とのかかわり方について考えたことを書くよう指導する。	

5. 準備物

【学 校】：消毒液、カーペット（必要に応じて）、授乳室（別室）、タックシール（名札用）、ワークシート（資料編：授業活用資料 P71～P74）

【NPO 等】：絵本、玩具など

【母 親】：赤ちゃんの出産時などの写真の持参を依頼、離乳食やおやつなども必要に応じて準備していただく。

6. 授業実践のヒント

- ◎ 児童館や子育て支援センター等へ出向いて実施してもよい。
- ◎ 事前指導として、「赤ちゃんの気持ちに寄り添うこと」、「声掛けすること」の大切さ、赤ちゃん人形を使ったこの仕方等を指導しておくことよい。
- ◎ 実施場所には、転倒時の安全対策のために、カーペットやフロアマットを敷く。
- ◎ 参加生徒への事前の体調管理を指導する。
- ◎ 様々な年齢の乳幼児とふれあえるよう配慮する。
- ◎ 生徒には、事前に、参観する親に質問してみたいことを考えさせておく。
- ◎ 生徒の名札を自分たちで作成させ、自己紹介に使えるようにしておく。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

連携先	連携先連絡一覧 P57
● 京都府内の保健所	
● 京都市保健所 （保健センター / 健康づくり推進課 母子・精神保健担当 支所 / 健康づくり推進室）	〃 P57
● 家庭教育支援チーム※1 ● 児童館	〃 P58
● 保育園（所） ● 医療法人財団 足立病院※2	〃 P59
● NPO 法人 まちづくりサポートクラブ※3	〃 P60
● 特定非営利活動法人 京都子育てネットワーク※4	〃 P60

※1の団体紹介は P53、※2～4の団体紹介は P54 に掲載。



写真：子育て学習プログラム実践体験教室
＜平成27年7月31日（金）会場：舞鶴市赤れんがパークにて実施＞

家庭

幼児とふれあう

～ 学校に幼児を招こう ～

1. 単元の目標

子どもの発達と生活、子どもの福祉などについて理解させ、保育の重要性について認識させるとともに、子どもとかわるごとの重要性について考えさせる。

2. 本時の目標

保育への関心を持つとともに子どもの発達の実際の姿について理解し、幼児と適切にかかわることができるようにする。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
子どもの心身の発達に関心を持ち、子どもと積極的にかわろうとしている。	子どもの心身の発達や環境とのかわりについて考えている。	子どもと適切にかかわることができる。	子どもの発達や生活について理解している。

4. 展開例（時間：50分程度）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手洗い・消毒を行い、身だしなみを整える。 ○ 諸注意を聞き、幼児とかわるご際の諸注意をしっかりと確認する。 ○ 学校を訪問した幼児を迎え入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児とかわるご際の注意事項を確認する。 ○ 事故防止には十分留意するよう指導する。 ○ 幼児の人数に応じて、数名ずつのグループに分かれる。 	グループに1～2名の幼児（および保護者）を配置する。
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒は、幼児に自己紹介する。 ○ 幼児に名前を聞く。 ○ 幼児と一緒にゲームや歌でふれあう。 ○ 幼児がけがをしないよう注意しながら遊ぶ。 ○ 幼児と一緒に後片づけをする。 ○ 生徒がアーチを作り、幼児を送り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児になじめない生徒や戸惑っている生徒がいれば、声をかけて参加を促す。 ○ 生徒には、積極的に、また、幼児の様子をよく観察しながらふれあうように指導する。 ○ 歌を歌いながら名前を尋ねるなど、幼児が話しやすい楽しい雰囲気を作るために工夫するよう指導する。 ○ 幼児たちがけがをしないよう注意する。 ○ 幼児たちと一緒に楽しく後かたづけするよう指導する。 	

	学習活動	指導上の留意点	備考
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の体験のまとめを行う。 ○ 今日の学習を通して考えたことや感想を書き、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児とのふれあい体験を通して、印象に残ったことや、幼児とのかかわり方について考えたことや工夫したことを書くよう指導する。 	

5. 準備物

- ・ 幼児たちと遊ぶゲームの内容の検討・確認（内容に応じた小道具など）
- ・ 消毒液、カーペットやフロアマット（必要に応じて）、絵本、玩具

6. 授業実践のヒント

- ◎ 生徒に幼児と遊ぶにはどのようなゲームや歌がよいかを考えさせ、遊ぶ内容をあらかじめ決める事前学習を行ってもよい。その際、保育士等の協力を得られるとよい。
- ◎ 実施場所には、転倒時の安全対策のために、カーペットやフロアマットを敷く。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

	連携先連絡一覧 P57
● 京都府内の保健所	
● 京都市保健所 （保健センター / 健康づくり推進課 母子・精神保健担当 支所 / 健康づくり推進室）	〃 P57
● 家庭教育支援チーム※ 1	〃 P58
● 児童館	〃 P58
● 保育園（所）	〃 P59
● 幼稚園	〃 P59
● 特定非営利活動法人 京都子育てネットワーク※ 2	〃 P60
● NPO 法人 まちづくりサポートクラブ※ 3	〃 P60

※ 1 の団体紹介は P53、※ 2・3 の団体紹介は P54 に掲載。

8. 参考資料（DVDの活用についてP77）

9. 備考

- ◎ 連携機関との協議によっては、幼児を学校に招く方法ではなく、保育園・幼稚園での校外学習として、保育体験を行うこともできる。（但し、参加する生徒の人数が制限される場合がある）



写真：京都府立洛水高等学校

プログラム **11**

【学習単位：クラス】

家庭 **保育園（所）実習**
～ 園児とふれあってみよう ～

1. 単元の目標

子どもの発達と生活、子どもの福祉などについて理解させ、保育の重要性について認識させるとともに、子どもとかわるごとの重要性について考えさせる。

2. 本時の目標

保育への関心を持つとともに子どもの発達の実際の姿について理解し、幼児と適切にかかわることができるようにする。

3. 評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
子どもの心身の発達に関心を持ち、子どもと積極的にかわろうとしている。	子どもの心身の発達と保育施設、保育士のかかわりについて考えている。	子どもと適切にかかわることができる。	子どもの発達や生活について理解している。

4. 展開例（時間：110分程度＜移動時間を含む＞）

	学習活動	指導上の留意点	備考
導入・移動 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身だしなみを整え、速やかに実習に入れるようにする。 ○ 手の消毒を行って入園する。 ○ 園児と関わる際の諸注意をしっかりと確認する。 ○ 各クラスに分かれて保育士の指導のもと活動に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交通ルールを守り安全に移動できるよう指導する。 ○ 園児とかわるごの上での注意事項を確認する。 ○ 事故防止には十分注意するよう指導する。 	
展開 80分	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに保育士の指示に従い、それぞれの年齢に応じた活動をする。 ○ 園児に名前を聞き、名前を呼んで活動できるようにする。 ○ 園児と一緒にゲームや歌でふれあう。 ○ 園児がけがをしないよう注意しながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒には、積極的に、また、園児の様子をよく観察しながらふれあうように指導する。 ○ 園児に興味を持ってもらえるようハッキリした口調や抑揚、大きな動作が必要なことを教え、恥ずかしがったり、うまくできない生徒には保育士と一緒に具体的に指導していく。 ○ 園児たちがけがをしないよう注意する。 ○ 活動の様子を写真に収め、後の振り返りに利用してもよい。 	

	学習活動	指導上の留意点	備考
移動・まとめ15分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の体験のまとめを行い発表する。 ○ 速やかに下校する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園児とのふれあい体験を通して、印象に残ったことや、幼児とのかかわり方について考えたことを発表させる。 ○ 指導いただいた保育士より全体の講評を述べてもらう。 ○ 交通ルールを守り安全に移動できるよう指導する。 ○ 次の授業で、各クラスでの活動の内容や園児の様子などを振り返り、まとめをすることを伝えておく。 	

5. 準備物

- ・ 生徒たちの名札
- ・ 体操服
- ・ 体育館シューズ
- ・ 消毒液
- ・ ワークシート **(資料編：授業活用資料 P74 ～ P76)**

6. 授業実践のヒント

- ◎ 0歳児から5歳児まで各クラスの人数に合わせて、生徒のグループを分けておく。
- ◎ 保育所との事前の打ち合わせ（各クラスへの人数振り分け、保育内容、読み聞かせる絵本 等）
- ◎ 事前に絵本の読み聞かせ講習会を実施したり、ゲームの遊び方や子どもの喜ぶ歌について練習しておくといよい。

7. 連携機関＜問い合わせ先＞

- 保育園（所） **連携先連絡一覧 P59**



写真：京都府立菟道高等学校

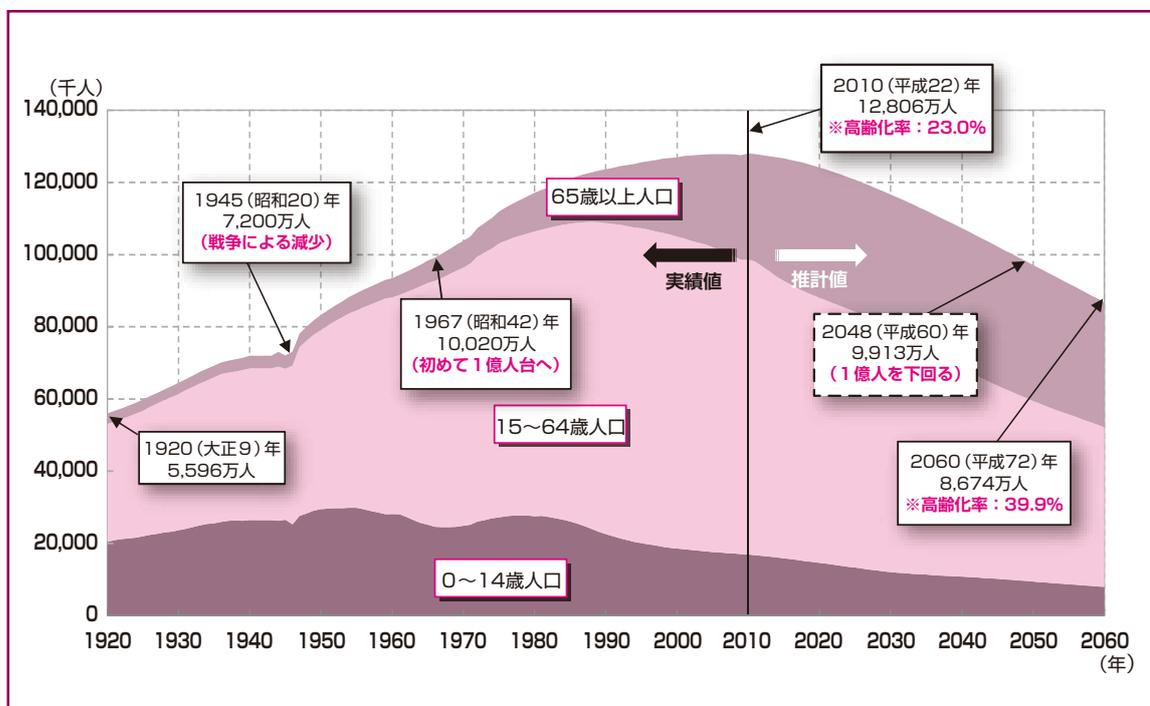
資料編

1	国の各種統計資料	45
2	京都府の各種統計資料	50
3	連携先団体紹介	53
4	連携先連絡一覧	57
5	参考HPアドレス一覧	62
6	授業活用資料	63

1 国の各種統計資料

(1) 人口の推移

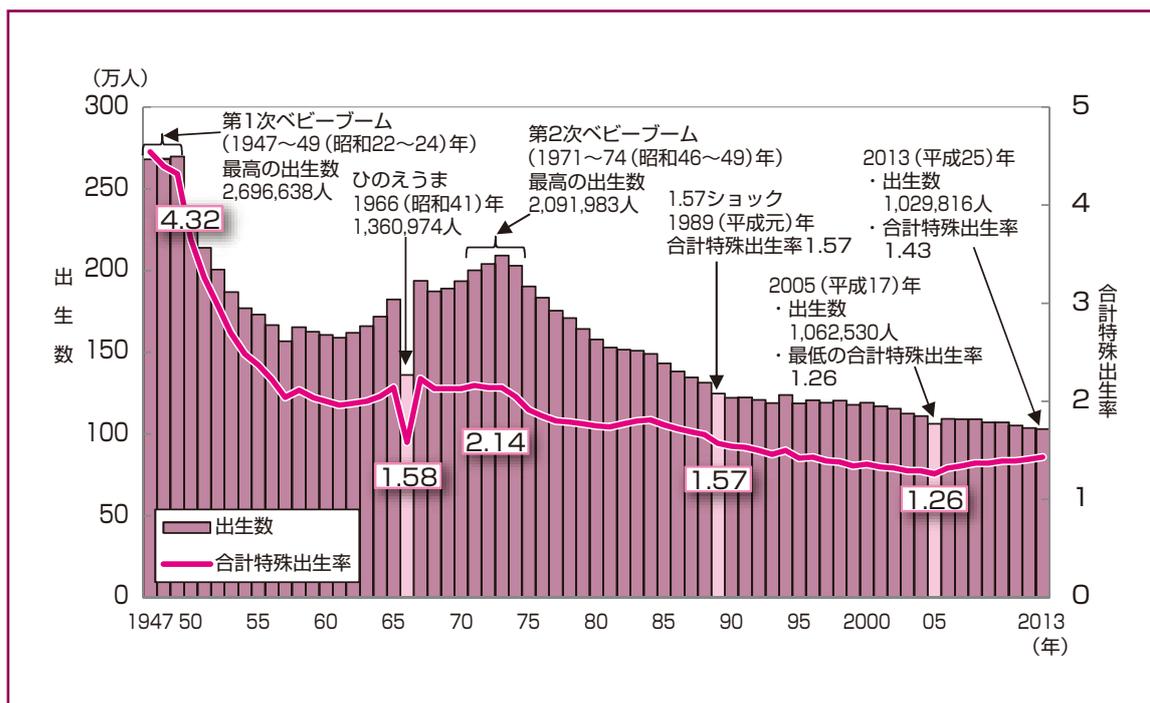
人口構造の推移と見通し



資料：内閣府「平成27年版 少子化社会対策白書」

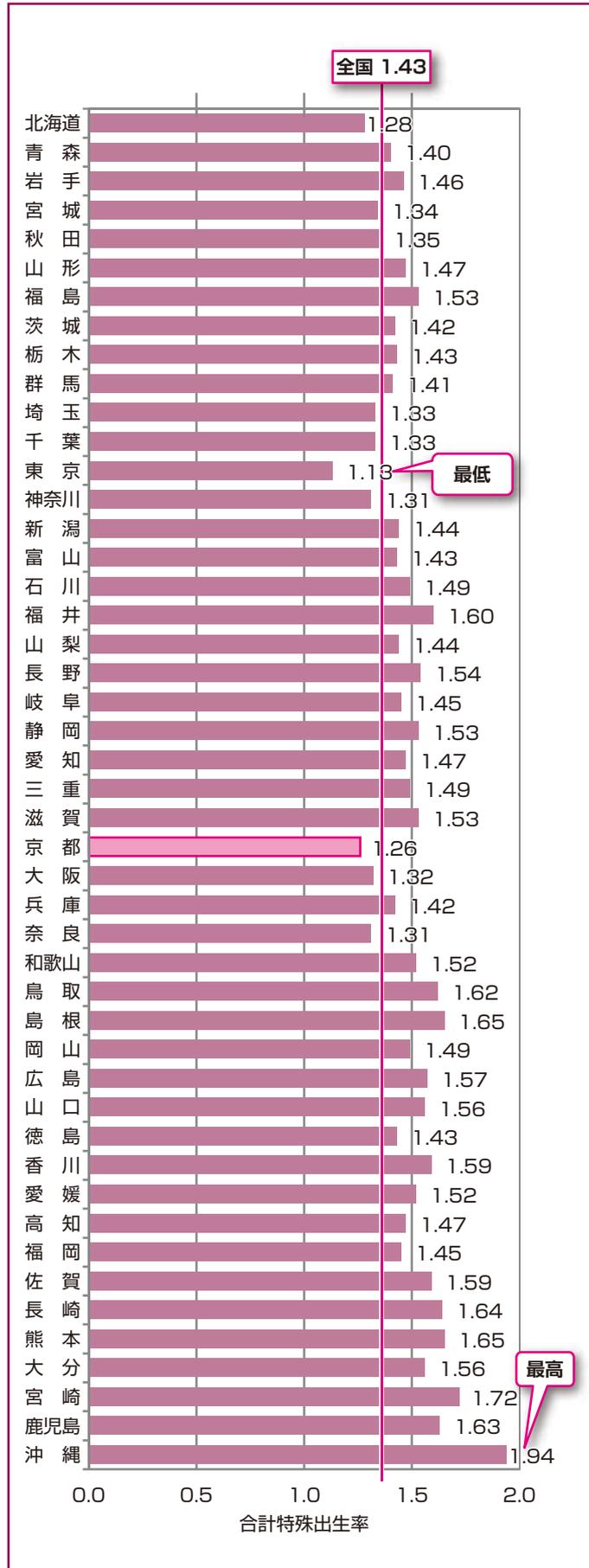
(2) 出生数等の推移

① 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



資料：内閣府「平成27年版 少子化社会対策白書」

② 都道府県別合計特殊出生率（2013年）

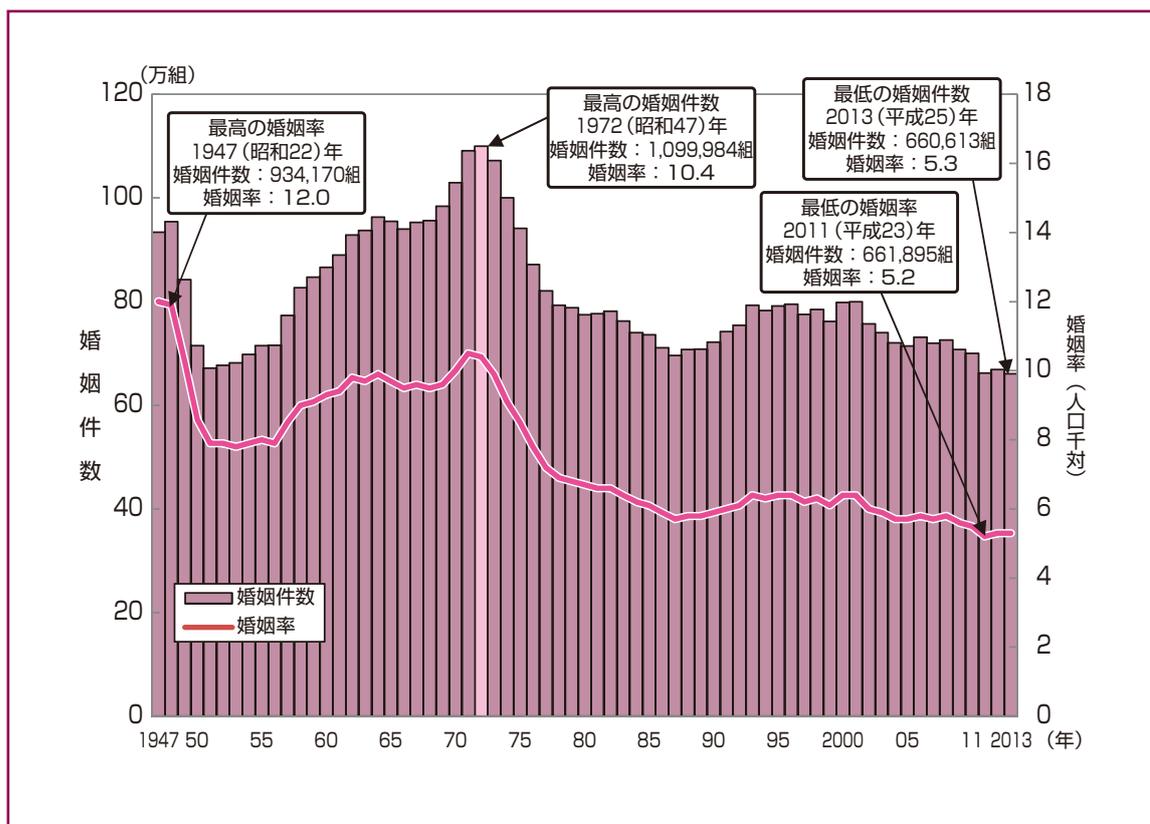


資料：内閣府「平成27年版 少子化社会対策白書」

都道府県	2013年 (確定数)	2012年 (確定数)	増減幅
北海道	1.28	1.26	0.02
青森	1.40	1.36	0.04
岩手	1.46	1.44	0.02
宮城	1.34	1.30	0.04
秋田	1.35	1.37	▲0.02
山形	1.47	1.44	0.03
福島	1.53	1.41	0.12
茨城	1.42	1.41	0.01
栃木	1.43	1.43	0.00
群馬	1.41	1.39	0.02
埼玉	1.33	1.29	0.04
千葉	1.33	1.31	0.02
東京	1.13	1.09	0.04
神奈川	1.31	1.30	0.01
新潟	1.44	1.43	0.01
富山	1.43	1.42	0.01
石川	1.49	1.47	0.02
福井	1.60	1.60	0.00
山梨	1.44	1.43	0.01
長野	1.54	1.51	0.03
岐阜	1.45	1.45	0.00
静岡	1.53	1.52	0.01
愛知	1.47	1.46	0.01
三重	1.49	1.47	0.02
滋賀	1.53	1.53	0.00
京都	1.26	1.23	0.03
大阪	1.32	1.31	0.01
兵庫	1.42	1.40	0.02
奈良	1.31	1.32	▲0.01
和歌山	1.52	1.53	▲0.01
鳥取	1.62	1.57	0.05
島根	1.65	1.68	▲0.03
岡山	1.49	1.47	0.02
広島	1.57	1.54	0.03
山口	1.56	1.52	0.04
徳島	1.43	1.44	▲0.01
香川	1.59	1.56	0.03
愛媛	1.52	1.52	0.00
高知	1.47	1.43	0.04
福岡	1.45	1.43	0.02
佐賀	1.59	1.61	▲0.02
長崎	1.64	1.63	0.01
熊本	1.65	1.62	0.03
大分	1.56	1.53	0.03
宮崎	1.72	1.67	0.05
鹿児島	1.63	1.64	▲0.01
沖縄	1.94	1.90	0.04
全国	1.43	1.41	0.02

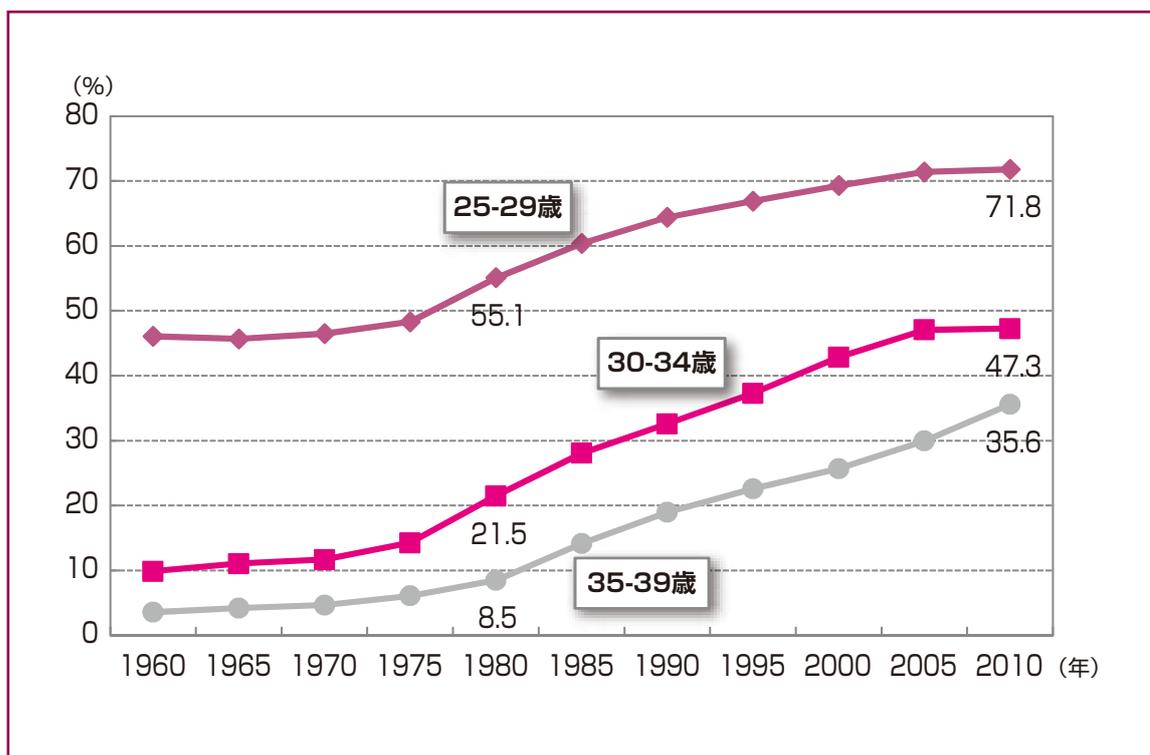
(3) 結婚をめぐる動向

① 婚姻件数及び婚姻率の年次推移



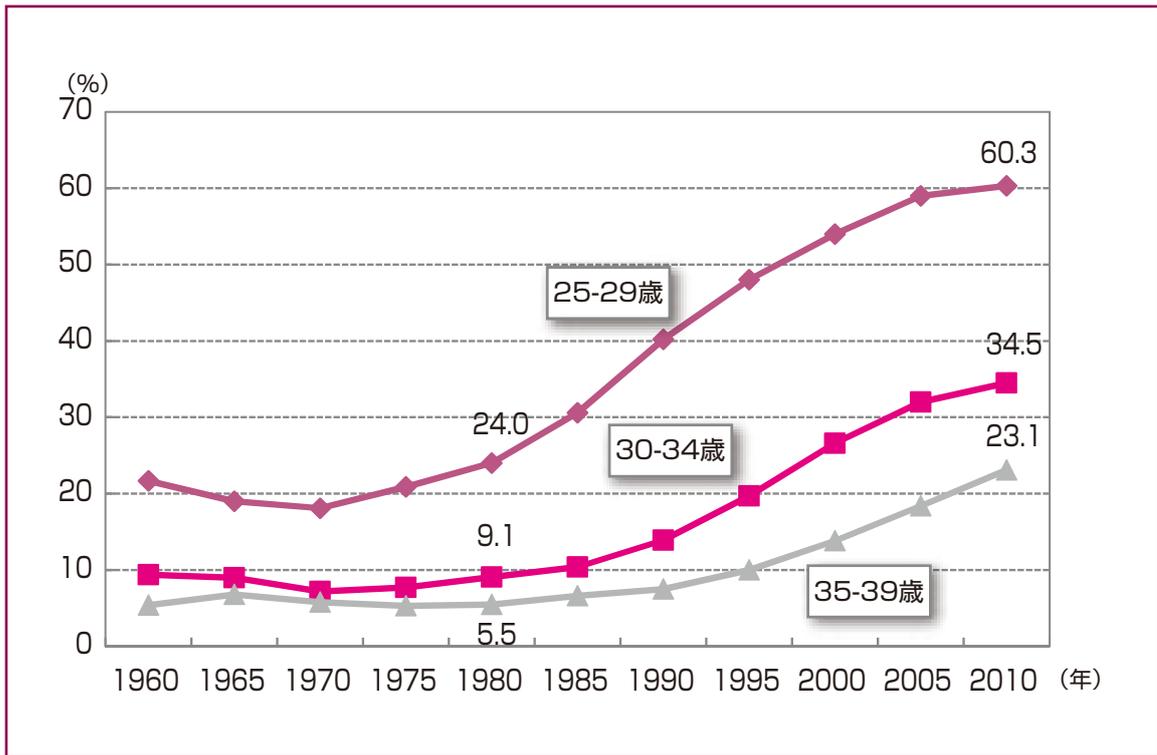
資料：内閣府「平成27年版 少子化社会対策白書」

② 年齢別未婚率の推移 (男性)



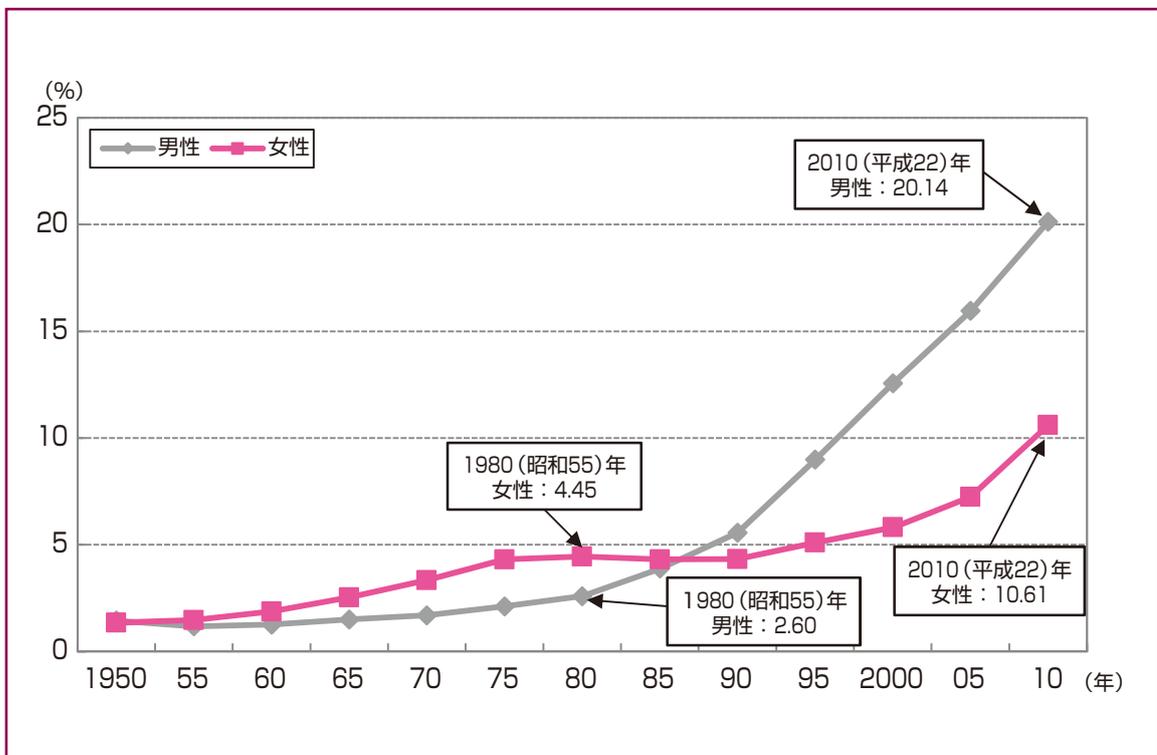
資料：内閣府「平成27年版 少子化社会対策白書」

③ 年齢別未婚率の推移（女性）



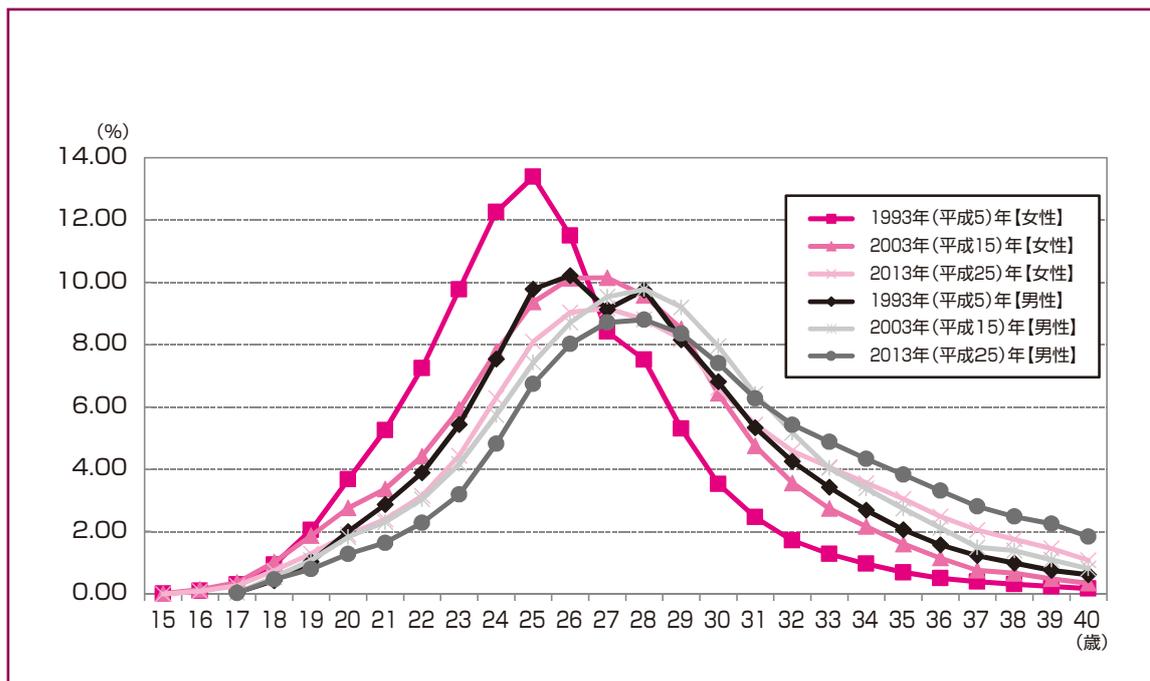
資料：内閣府「平成 27 年版 少子化社会対策白書」

④ 生涯未婚率の推移



資料：内閣府「平成 27 年版 少子化社会対策白書」

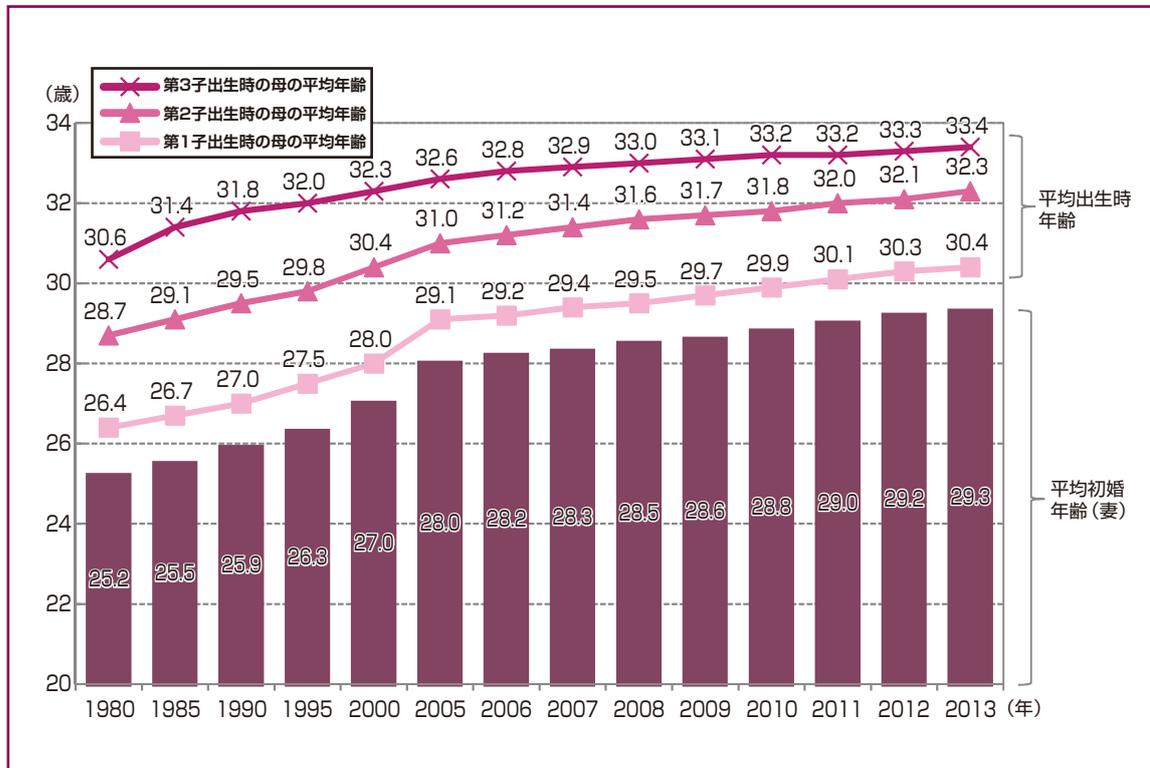
⑤ 初婚年齢別結婚件数の割合



資料：内閣府「平成 27 年版 少子化社会対策白書」

(4) 出産をめぐる動向

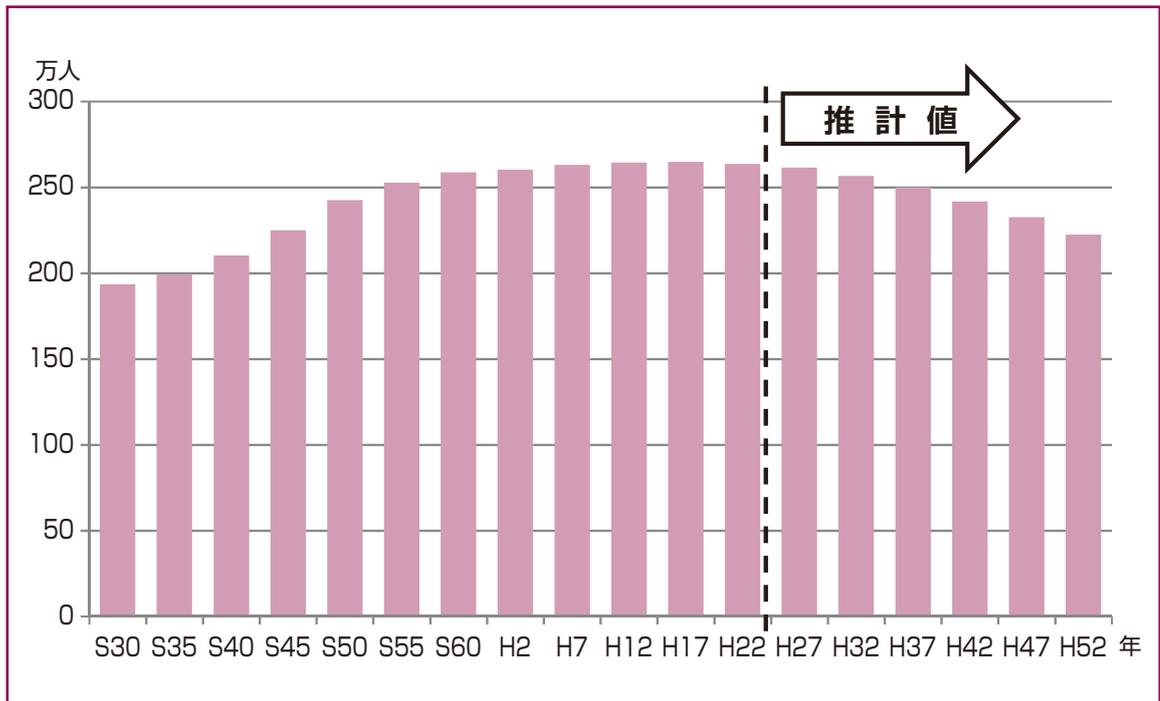
平均初婚年齢と母親の平均出生時年齢の年次推移



資料：内閣府「平成 27 年版 少子化社会対策白書」

2 京都府の各種統計資料

(1) 京都府の人口推移



資料：S30～H22：総務省「国勢調査」
H27～H52：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

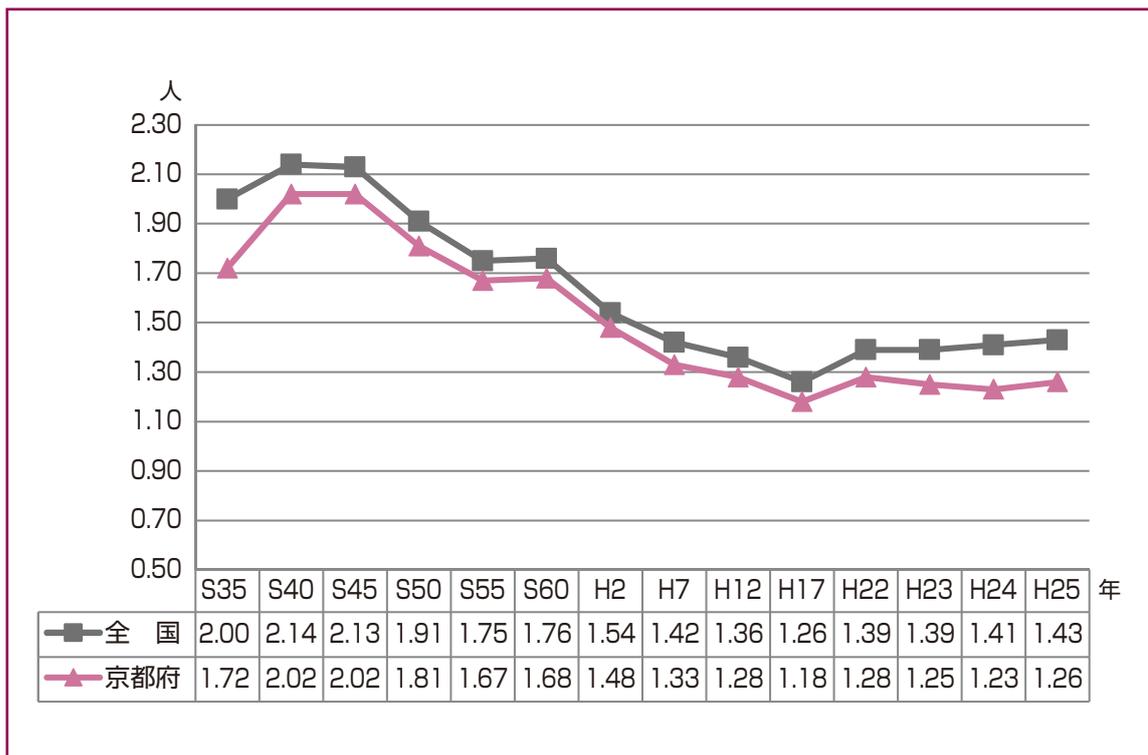
(2) 出生数等の推移

① 京都府の出生数の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

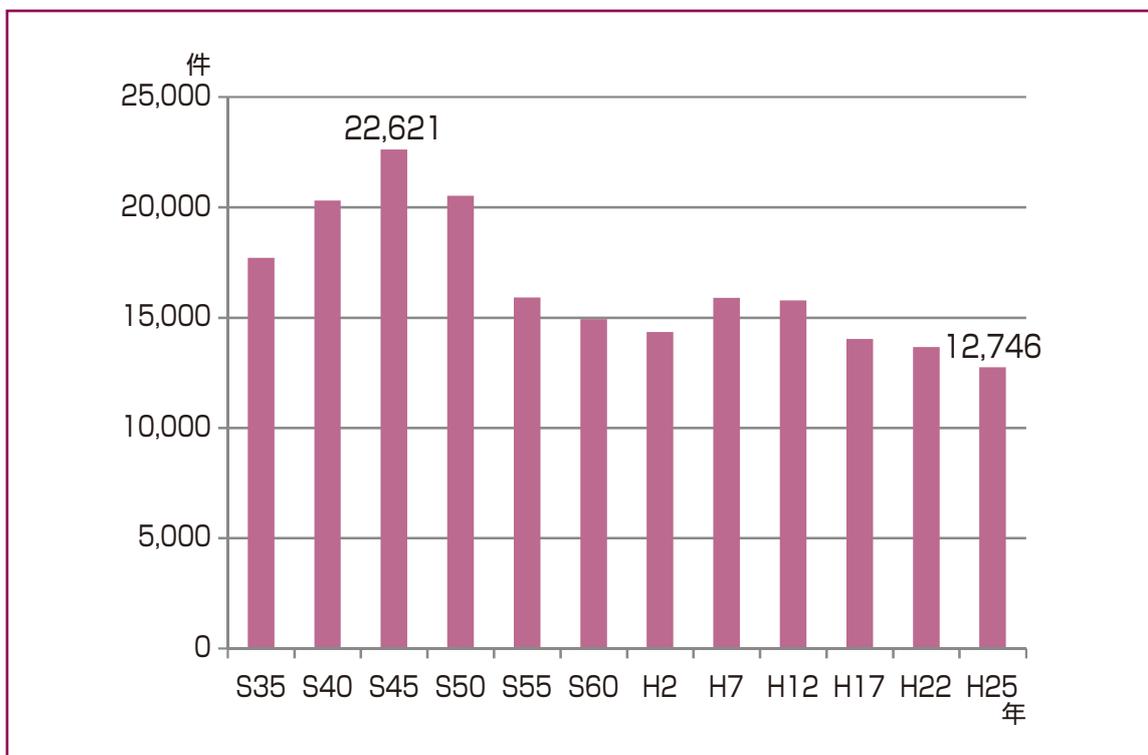
② 京都府及び全国の合計特殊出生率



資料：厚生労働省「人口動態統計」

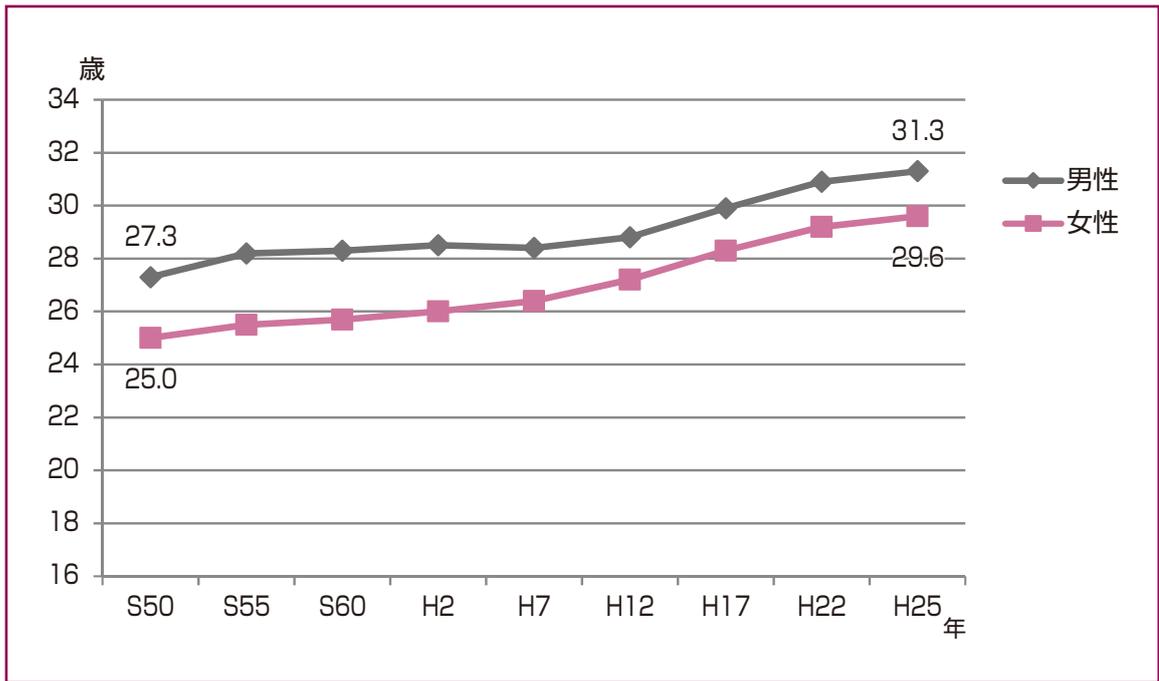
(3) 結婚をめぐる動向

① 京都府の婚姻件数の推移



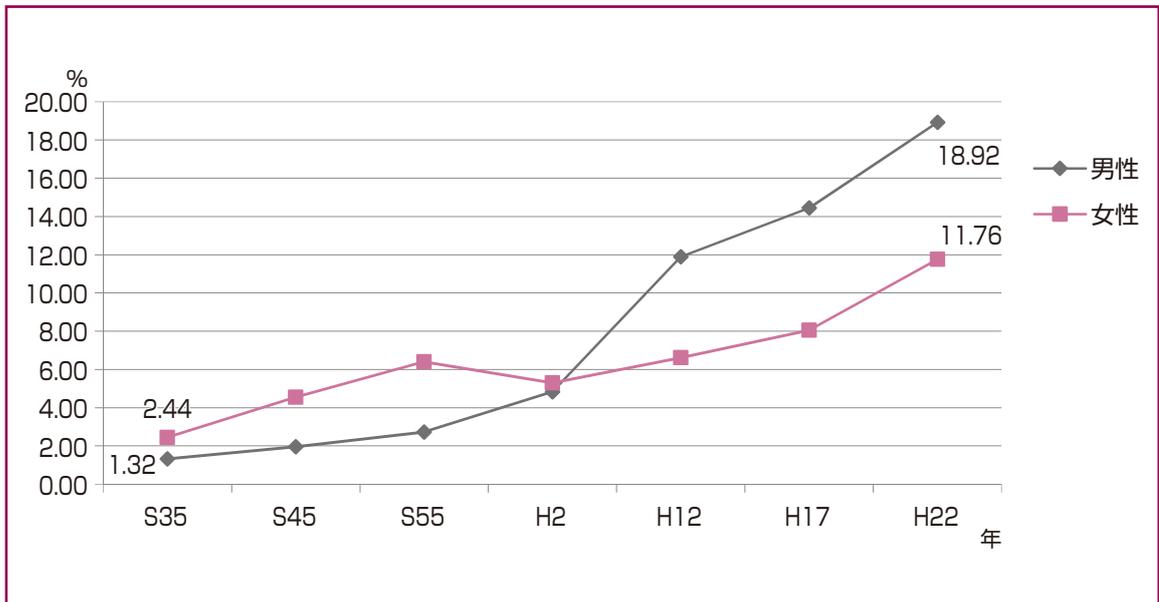
資料：厚生労働省「人口動態統計」

② 京都府の平均初婚年齢の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

③ 京都府の生涯未婚率の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集（2014）」平成 26 年

3 連携先団体紹介

表の見方

1 ※印がある場合

例：【有償^①（要相談）／中丹、丹後通学圏^②】

- ①講師料やコーディネーター料、交通費が必要である。
- ②中丹、丹後通学圏の学校が対象である。

2 ※印がない場合

- ①基本的には無償であるが、交通費等の費用の一部負担が必要な場合がある。
- ②全域域が対象か、住所のある市町の学校が対象である。

対象プログラム 9・10

■笠置小学校支援地域本部家庭教育支援チーム 【近隣校のみ】

家庭教育支援チームは、小学校PTA会員や保健師、臨床心理士、民生児童委員、保育所や学校関係者等で構成され、子育てや子どもの発達に関する相談や取組を行っている。

【問い合わせ先】 相楽東部広域連合教育委員会笠置町分室
相楽郡笠置町笠置浜 56
TEL：0743-95-2726
E-mail：rengou-syougai@rengou.jp

対象プログラム 9

■京丹後市地域家庭教育支援チーム 【近隣校のみ】

京丹後市には6つの家庭教育支援チームがあり、それぞれ子育てサポーター（PTAOBや、民生児童委員、保育所や学校関係者等で構成）が、子育てや子どもの発達に関する相談や取組を行っている。

- 大宮地域家庭教育支援チーム（呼称：すこやか倶楽部おおみや）
- 網野地域家庭教育支援チーム（呼称：ほのぼの倶楽部あみの）
- 久美浜地域家庭教育支援チーム（呼称：久美浜おひさまクラブ）
- 峰山町地域家庭教育支援チーム（呼称：のびのび倶楽部みねやま）
- 丹後地域家庭教育支援チーム（呼称：ほんわか倶楽部たんご）
- 弥栄地域家庭教育支援チーム（呼称：あいあい倶楽部やさか）

【問い合わせ先】 京丹後市教育委員会社会教育課
京丹後市大宮町口大野 226
TEL：0772-69-0630 FAX：0772-68-9061
E-mail：shakaikoiku@city.kyotango.lg.jp

対象プログラム 5・6・8

■公益社団法人 京都府助産師会 ※【有償（要相談）】

1905年に発足した京都市産婆組合を前身とし、1954年現在の社団法人京都府助産師会となった。地域で活動する助産師と連携をはかりながら、京都府の母子保健の担い手として妊娠出産の援助のみならず、あらゆるライフステージにおける助産師の自主的な活動を生み出す場となっている。

公益社団法人日本助産師会とも連携し、全国的な視野のもとに活動を行う一方で、府内の子育て・女性健康支援センターとしての役割を受けて、多胎に関する子育て支援、虐待の予防、思春期教育、祖父母世代への支援など、そのライフステージに応じた支援活動をしている。

【問い合わせ先】
京都市中京区西ノ京南両町 33-1
TEL：075-841-1521
E-mail：kyoto-midwife@ray.ocn.ne.jp

■ 連携先団体紹介 ■

対象プログラム 2・3・4・6・7・9

■ 医療法人財団 足立病院 【山城、京都市、乙訓、口丹通学圏】

足立病院で誕生する赤ちゃんは年間 1,600 人以上。お産だけでなく、子どもを授かりたいカップルのサポートから出産・子育て支援、さらに女性の一生涯における健康ケアなど、女性とその家族を幅広く支えている。

【問い合わせ先】

京都市中京区東洞院通り二条下ル
TEL：075-221-7431
FAX：075-221-7435
URL：<http://www.adachi-hospital.com>

対象プログラム 2・6・9・10

■ 特定非営利活動法人 京都子育てネットワーク ※【有償（要相談）】

1997年3月、任意団体として発足。2011年9月、特定非営利活動法人京都子育てネットワークとして、現在に至る。

乳幼児の子育て家庭（妊婦を含む）がより豊かに暮らすために当事者や市民が参画できる循環型の子育て相互支援社会を目指し、そのために社会・地域とつながり、発展し合いながら環境づくり・居場所づくり・関係づくりに寄与することを目的として活動している。

主な活動内容

- つどいの広場委託事業
- 仲間づくり応援事業
- 出張一時保育事業
- 地域子育て情報発信事業
- ママ講師派遣事業
- 地域子育て支援コンサルテーション事業

【問い合わせ先】

京都市伏見区深草願成町 32-2
TEL：080-5309-1453（藤本理事長）
E-mail：kkn.1997@gmail.com
URL：http://www.geocities.jp/kk_net1997/

対象プログラム 2・3・4・9・10

■ NPO 法人 まちづくりサポートクラブ ※【有償（要相談）】／中丹、丹後通学圏】

舞鶴市西市民プラザを運営し、まちづくり子育て支援に取り組む特定非営利活動法人（NPO法人）。市民や市民活動団体をつなぐネットワークの拠点として、福祉や環境など様々な面からまちの活性化を支えている。

【問い合わせ先】 NPO法人まちづくりサポートクラブ

舞鶴市字円満寺 158-6 舞鶴市西市民プラザ内
TEL：0773-77-0086
FAX：0773-77-0508
E-mail：plaza@leto.eonet.ne.jp

対象プログラム 1・3・4

■ 特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西 ※【有償（要相談）】

2013年4月設立

「笑ろてるパパがええやん！」を合言葉に、個性豊かな子育て現役のパパたちが、笑っているパパを増やし、子育てに優しい、楽しい社会にするために活動している。

パパが子育てを主体的に楽しめば、子どもの育つ環境が豊かになり、ママが楽になる。そして、笑っている家族になる。パパ自身も子育てを通して、仕事や地域で役立つ能力を身につけることができる。ファザーリング・ジャパン関西では活動を通して、様々なパパのライフスタイル、家族のかたち、これからの社会のあり方を提案している。

【問い合わせ先】

兵庫県宝塚市仁川北 2-1-8-101

TEL：080-6229-5164（事務局 篠田）

E-mail：atsushishinoda@gmail.com

URL：http://fjkansai.jp/

対象プログラム 3・4

■ 一般社団法人全国銀行協会【どこでも出張講座（講師派遣）】

全国銀行協会では、学校の授業などに、講師を派遣する「どこでも出張講座」を実施。

- テーマ：「ライフプランとお金」など相談の上決定
- 講師：一般社団法人全国銀行協会役職員等
- 派遣費用：不要（交通費を含め協会が負担）

【問い合わせ先】一般社団法人全国銀行協会 企画部金融リテラシー推進室

東京都千代田区丸の内 1-3-1 銀行会館

TEL：03-5252-3720

FAX：03-3214-0230

※講師派遣に関する詳細情報・申込書のダウンロードは下記サイト参照

URL：http://www.zenginkyo.or.jp/education/detachment/

対象プログラム 3・4

■ 特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会（日本FP協会）

[パーソナルファイナンス教育インストラクター制度]

パーソナルファイナンス教育に関する経験を持つFP（ファイナンシャル・プランナー）による出張授業を実施。独自の金融経済教育用テキスト『10代から学ぶパーソナルファイナンス』を使い、学習活動を実践的に支援。

- 授業プラン：先生の要望に応じて、学校ごとに作成
- 講師：パーソナルファイナンス教育インストラクター
- 派遣費用：不要（交通費を含め協会が負担）

【問い合わせ先】日本FP協会 総合教育部 パーソナルファイナンス教育課

東京都港区虎ノ門 4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス 5F

TEL：03-5403-9779・9743

FAX：03-5403-9701

E-mail：pf-kyoiku@jafp.or.jp

受付時間 9:00～17:30（土日・祝日・年末年始を除く）

※講師派遣に関する詳細情報・申込書のダウンロードは下記サイト参照

URL：http://www.jafp.or.jp/personal_finance/

■ 連携先団体紹介 ■

対象プログラム 3・4

■日本証券業協会 [金融リテラシー出前講座]

ライフデザイン論に加え、金融リテラシー（金融に関する知識を生活に活用する能力）や、資産形成の必要性、金融商品の活用を身に付ける。

- 授業プラン：「社会に出る前に身に付けたい金融リテラシー」など相談の上決定
- 講師：本協会職員
- 派遣費用：不要（交通費を含め協会が負担）

【問い合わせ先】 日本証券業協会 金融・証券教育支援センター
東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8
TEL：03-3667-8029
FAX：03-3668-1004
E-mail：s_edu@wan.jsda.or.jp
※講師派遣に関する詳細情報・実績等は下記サイト参照
URL：http://www.jsda.or.jp/manabu/gakusei/u_demae.html

対象プログラム 4

■ソニー生命保険株式会社 ※【有償（要相談）／原則：山城、京都市・乙訓通学圏】

「ライフプランニング授業」という、仮想の家族のライフプランシミュレーション体験授業を実施。人生をお金の面から捉え、自分らしい人生、夢を実現させるための人生の選択、考え方を具体的に考えていく。学年全体での実施が可能です。先生の要望を取り入れながら、プログラムをアレンジするため、事前に教員との打合せを実施することを前提としている。※第4回キャリア教育アワード最優秀賞（経済産業大臣賞）受賞。

【問い合わせ先】 ソニー生命保険株式会社 広報部
東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル東館
TEL: 03-3475-8813
FAX：03-3475-8885
E-mail：lifeplanning_jugyo@sonylife.co.jp
URL：http://www.sonylife.co.jp/volunteer/lp/

対象プログラム 3

■京都大学男女共同参画推進本部

男女共同参画推進室と女性研究者支援センターをより有機的に運営するため、平成26年度より推進体制を強化し、男女共同参画推進本部を設置した。広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ、育児・介護支援ワーキンググループ、病児保育事業ワーキンググループ、就労支援事業ワーキンググループの4つのグループから構成されている。

【問い合わせ先】 京都大学総務部人事課職員掛（男女共同参画推進本部）
京都市左京区吉田本町
TEL:075-753-2283
E-mail：(職員掛) syokuin@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
(男女共同参画) g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※費用の一部負担が必要な場合があります。
※他校と日程が重なった場合は、実施できないことがあります。

4 連携先連絡一覧

1 保健所

対象プログラム 6・8・9・10

(1) 京都府内の保健所

保健所名	連絡先	所在地	所管地域
乙訓保健所	TEL:075-933-1151 (代表) FAX:075-932-6910	向日市上植野町馬立 8	向日市、長岡京市、 大山崎町
山城北保健所	TEL:0774-21-2191 (代表) FAX:0774-24-6215	宇治市宇治若森 7-6	宇治市、城陽市、 八幡市、京田辺市、 久御山町、井手町、 宇治田原町
山城北保健所 綴喜分室	TEL:0774-63-5745 (代表) FAX:0774-62-6416	京田辺市田辺明田 1	
山城南保健所	TEL:0774-72-4300 (代表) FAX:0774-72-8412	木津川市木津上戸 18-1	木津川市、笠置町、 和束町、精華町、 南山城村
南丹保健所	TEL:0771-62-4751 (代表) FAX:0771-63-0609	南丹市園部町小山東町藤ノ木 21	亀岡市、南丹市、 京丹波町
中丹西保健所	TEL:0773-22-5744 (代表) FAX:0773-22-4350	福知山市篠尾新町一丁目 91 番地	福知山市
中丹東保健所	TEL:0773-75-0805 (代表) FAX:0773-76-7746	舞鶴市倉谷村西 1499	舞鶴市、綾部市
丹後保健所	TEL:0772-62-0361 (代表) FAX:0772-62-4368	京丹後市峰山町丹波 855	宮津市、京丹後市、 伊根町、与謝野町

(2) 京都市保健所 (保健センター / 健康づくり推進課 母子・精神保健担当 支所 / 健康づくり推進室)

保健所名	連絡先	所在地
北保健センター	TEL:075-432-1454	京都市北区紫野西御所田町 56
上京保健センター	TEL:075-441-2873	京都市上京区堀出シ町 285
左京保健センター	TEL:075-702-1222	京都市左京区松ヶ崎堂ノ上町 7-2
中京保健センター	TEL:075-812-2598	京都市中京区西堀川通御池下る 西三坊堀川町 521
東山保健センター	TEL:075-561-9130	京都市東山区清水 5 丁目 130-6
山科保健センター	TEL:075-592-3479	京都市山科区栂辻池尻町 14-2
下京保健センター	TEL:075-371-7293	京都市下京区西洞院通塩小路上る 東塩小路 608-8
南保健センター	TEL:075-681-3574	京都市南区西九条南田町 1-2
右京保健センター	TEL:075-861-2179	京都市右京区太秦下刑部町 12
西京保健センター	TEL:075-392-5690	京都市西京区桂良町 1-2
西京保健センター 洛西支所	TEL:075-332-9348	京都市西京区大原野東境谷町 2 丁目 1-2
伏見保健センター	TEL:075-611-1163	京都市伏見区鷹匠町 39-2
伏見保健センター 深草支所	TEL:075-642-3879	京都市伏見区深草向畑町 93-1
伏見保健センター 醍醐支所	TEL:075-571-6748	京都市伏見区醍醐大構町 28

※ 京都市保健センターでは、思春期保護をテーマに育児の基礎知識、人形を使っての沐浴、おむつ交換、抱っこの練習、命の教育、性や性感染症に関する教育などを実施しています。保健センターへの協力依頼及び妊婦体験、新生児人形の貸し出し等、内容については各保健センターと協議してください。

※費用の一部負担が必要な場合があります。
 ※他校と日程が重なった場合は、実施できないことがあります。

2 行政機関

対象プログラム 6・8

名称	連絡先	所在地
綾部市保健推進課 (綾部市保健福祉センター)	TEL:0773-42-0111	綾部市青野町東馬場 15 番地の 6

※2～3カ月前までに申請要、妊婦の疑似体験用エプロン・沐浴用物品・新生児人形の貸し出し(2つ)可能

対象プログラム 2・3・6・8

名称	連絡先	所在地
福知山市健康推進課 (福知山市中央保健福祉センター)	TEL:0773-23-2788	福知山市字内記 100 番地(内記 3 丁目)
舞鶴市保健センター (健康づくり・地域医療課)	TEL:0773-65-0065	舞鶴市字余部下 1167 番地
与謝野町保健課	TEL:0772-43-1514	与謝郡与謝野町字加悦 433 番地

※物品の数や人員に限りがあり、また他部署や外部団体との連携が必要な場合もあるため、事前の調整は早め
 に着手してください。

3 家庭教育支援チーム

対象プログラム 9・10

名称	連絡先	所在地
笠置小学校支援地域本部 家庭教育支援チーム	【事務局】 相楽東部広域連合教育委員会 笠置町分室 TEL:0743-95-2726 E-mail : rengou-syougai@rengou.jp	京都市相楽郡笠置町笠置浜 56 【近隣校のみ】

対象プログラム 9

名称	連絡先	所在地
京丹後市地域 家庭教育支援チーム	【事務局】 京丹後市教育委員会社会教育課 TEL : 0772-69-0630 FAX : 0772-68-9061 E-mail : shakaikyoiku@city.kyotango.lg.jp	京丹後市大宮町口大野 226 【近隣校のみ】

4 乳幼児等関係機関

(1) 児童館

対象プログラム 6・9・10

名称	連絡先	所在地
公益社団法人 京都市児童館学童連盟	TEL:075-256-0280	京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町 65 朝日ビル 5 階

※費用の一部負担が必要な場合があります。
※他校と日程が重なった場合は、実施できないことがあります。

(2) 保育園 (所)

対象プログラム 9・10・11

名称	連絡先	所在地
一般社団法人 京都府保育協会	TEL : 075-223-8960 FAX : 075-223-8961	京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町 375 URL : http://kyotofu-hoiku.or.jp/
公益社団法人 京都市保育園連盟	TEL : 075-253-3186 FAX : 075-253-3188	京都市中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館

(3) 幼稚園

対象プログラム 10

名称	連絡先	所在地
公益社団法人 京都府私立幼稚園連盟	TEL : 075-344-0771 FAX : 075-344-4177	京都市下京区室町通り高辻上る山王町 561 番地 京都私学会館内 URL : http://www.kyoshiyoh.com/renmei/
公益社団法人 京都市私立幼稚園協会	TEL : 075-257-0375 FAX : 075-253-4188	京都市中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館内 URL : http://www.kyoshiyoh.com/kyokai/

5 医療機関

(1) 助産師会 【有償 (要相談)】

対象プログラム 5・6・8

名称	連絡先	所在地
公益社団法人 京都府助産師会	TEL : 075-841-1521 E-mail : kyoto-midwife@ray.ocn.ne.jp	京都市中京区西ノ京南両町 33-1

(2) 病院

対象プログラム 2・3・4・6・7・9

名称	連絡先	所在地
医療法人財団 足立病院	TEL : 075-221-7431 (代) FAX : 075-221-7435	京都市中京区東洞院通二条下ル URL : http://www.adachi-hospital.com 【山城、京都市・乙訓、口丹通学圏】

※費用の一部負担が必要な場合があります。
 ※他校と日程が重なった場合は、実施できないことがあります。

(3) 助産院等【有償（要相談）】

対象プログラム 6

名称	連絡先	所在地
みき助産院 (京都府助産師会所属)	TEL・FAX:0773-77-7153	舞鶴市喜多小字家地 817-3 URL : http://www.maipace.info/miki-midwife/
ひとみ助産院 (京都府助産師会所属)	TEL : 090-2107-1269	舞鶴市泉源寺
神原 祐美 氏 (助産師・明治国際医療大学非常勤講師・京都府助産師会所属)	TEL : 075-495-3420	京都市北区紫野下石龍町 10-9 【出張講義／山城、京都市・乙訓、口丹通学圏】

6 NPO 法人【有償（要相談）】

対象プログラム 2・6・9・10

名称	連絡先	所在地
特定非営利活動法人 京都子育てネットワーク	TEL : 080-5309-1453 (藤本理事長) E-mail : kkn.1997@gmail.com	京都市伏見区深草願成町 32-2 URL : http://www.geocities.jp/kk_net1997/

対象プログラム 2・3・4・9・10

名称	連絡先	所在地
NPO 法人 まちづくりサポートクラブ	TEL : 0773-77-0086 FAX : 0773-77-0508 E-mail : machisapo.jimdo.com	舞鶴市字円満寺 158-6 舞鶴市西市民プラザ 【中丹、丹後通学圏】
※親子の募集、乳幼児ふれあいのサポート		

対象プログラム 1・3・4

名称	連絡先	所在地
特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西	TEL : 080-6229-5164 (事務局 篠田) E-mail : atsushishinoda@gmail.com	兵庫県宝塚市仁川北 2-1-8-101 URL : http://fjkansai.jp/

※費用の一部負担が必要な場合があります。
※他校と日程が重なった場合は、実施できないことがあります。

7 金融機関等

対象プログラム 4

名称	連絡先	所在地
京都府金融広報委員会 (事務局： 日本銀行京都支店)	TEL：075-212-5193	URL：http://www3.boj.or.jp/kyoto/koho/koho.html 「結（ゆい）ネット KYOTO」 URL：http://www.kyoto-be.ne.jp/gakkyou/cms/?page_id=88 をご覧ください。
ソニー生命保険株式会社 広報部	TEL：03-3475-8813 FAX：03-3475-8885 E-mail： lifeplanning_jugyo@sonylife.co.jp	東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル東館 URL：http://www.sonylife.co.jp/volunteer/lp/ 【有償（要相談）／原則：山城、京都市・乙訓通学圏】

対象プログラム 3・4

名称	連絡先	所在地
日本年金機構 京都南事務所	TEL：075-644-1165	URL：http://www.nenkin.go.jp/
京都府租税教育推進連 絡協議会	TEL：075-441-9171	URL：http://kyoto-sosuiren.com/study_tax.html
京都弁護士会	TEL：075-231-2337 (法教育委員会担当事務局)	URL：https://www.kyotoben.or.jp/syokai_ houkyouiku_top.cfm#a1
上記の詳細については「結（ゆい）ネット KYOTO」 URL：http://www.kyoto-be.ne.jp/gakkyou/cms/?page_id=88 をご覧ください。		
一般社団法人 全国銀行協会 [どこでも出張講座 (講師派遣)]	TEL：03-5252-3720 FAX：03-3214-0230	一般社団法人全国銀行協会 企画部金融リテラシー推進室 東京都千代田区丸の内 1-3-1 銀行会館 ※講師派遣に関する詳細情報・申込書のダウンロード は下記サイト参照 URL：http://www.zenginkyo.or.jp/education/ detachment/
特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・ プランナーズ協会 (日本 FP 協会)	TEL：03-5403-9779 TEL：03-5403-9743 FAX：03-5403-9701	日本 FP 協会 総合教育部 パーソナルファイナンス教育課 東京都港区虎ノ門 4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス 5F E-mail：pf-kyoiku@jafp.or.jp 受付時間 9:00～17:30 (土日・祝日・年末年始を除く) ※講師派遣に関する詳細情報・申込書のダウンロードは 下記サイト参照 URL：http://www.jafp.or.jp/personal_finance/
日本証券業協会 [金融リテラシー出前 講座]	TEL：03-3667-8029 FAX：03-3668-1004	日本証券業協会 金融・証券教育支援センター 東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8 E-mail：s_edu@wan.jsda.or.jp ※講師派遣に関する詳細情報・実績等は下記サイト参照 URL：http://www.jsda.or.jp/manabu/gakusei/u_dema.html

※費用の一部負担が必要な場合があります。

※他校と日程が重なった場合は、実施できないことがあります。

8 大学等

対象プログラム 3

名称	連絡先	所在地
京都大学 男女共同参画推進本部	京都大学総務部人事課職員掛 (男女共同参画推進本部) TEL : 075-753-2283 E-mail : syokuin@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp(職員掛) g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp(男女共同参画)	京都市左京区吉田本町

5 参考 HP アドレス一覧

機関名	URL	備考
内閣府	http://www8.cao.go.jp/shoushi/	少子化対策についての施策とその取組及び子ども・子育て支援制度等について調べることができる。
厚生労働省	http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/toukei/	厚生労働省が行っている統計調査結果（人口動態調査等）を調べることができる。
	http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/index.html	子育て支援等に関する施策を調べることができる。
京都府 少子化対策課	http://www.pref.kyoto.jp/info/gyosei/soshiki/144/index.html	京都府の少子化に関する施策や調査結果を調べることができる。
京都府 子育て政策課	http://www.pref.kyoto.jp/kosodate/	京都府内の子育て等に関する情報を調べることができる。

プログラム 3-3

年()組()番 氏名()

グループで考えよう

「子どもの急な発熱のときどうするか」

- 1 ある共働きの家庭での、朝の一場面である。セリフを考えてみよう。
(家庭の状況) 父、母…ともにフルタイムで会社勤め。子…保育園児(年中児)

<p>場面①</p> <p>子「ぼく、もうごちそうさまする。」</p> <p>母「あら、もういいの」</p> <p>父「ちょっとしか食べてないじゃないか。」</p>	<p>場面②</p> <p>子「なんか、気持ち悪いよ。」</p> <p>母「あら、熱があるみたい。」</p> <p>父「測ってみたほうがいいぞ。」</p>
<p>場面③</p> <p>母「38度もあるわ。」</p> <p>父「保育園には預けられないなあ。」</p>	<p>場面④</p> <p>母「 」</p> <p>父「 」</p>

- 2 班の他の人の意見を聞いて、班の意見としてまとめよう。

- 3 各班の発表を聞いて、気付いたことを記入しよう。

- 4 子育てと就労を両立するための解決策を見直し、班で意見交換をする。次の1～3に留意し、最も望ましい解決策を考えよう。

留意点1: _____

留意点2: _____

留意点3: _____

グループ討議メモ

最も望ましい解決策

- 5 子育て支援についてまとめよう。

ライフデザインシート(例)

	5年後	10年後	15年後	20年後	25年後	30年後	35年後	40年後	45年後
年齢									
自分									
年齢									
年齢									
年齢									
年齢									
家族									
生活計画									
経済計画									

プログラム 4-3

No.1 年 組 () 番 名前 ()

1) 人生設計 (ライフプラン)
ライフプランニングでは、漠然とした『夢』を一つ一つ具体化していき、自分の人生設計を描いていきます。

人生設計とは
(ライフプランニング)

⇒

夢・目標を探す (未来)
↓
今の自分を知る (現在)
↓
人生設計を描く

(2) 自己分析

自分の長所を書きだそう

	() な「私」	

自分の短所を書きだそう

	() な「私」	

自分を一言でまとめると

(1) 夢・目標をイメージ (未来)

	「夢・目標」は?	

① (理由)	② (理由)	③ (理由)
④ (理由)	「職業・仕事」は? (なぜ?・理由は?)	⑤ (理由)
⑥ (理由)	⑦ (理由)	⑧ (理由)

No.2 年 組 () 番 名前 ()

(3) 未来をイメージする

①	②	③
④	「1年後」は? (近い未来予想)	⑤
⑥	⑦	⑧

①	②	③
④	「10年後」は? (未来予想)	⑤
⑥	⑦	⑧

こんな「1年後」・「10年後」を向かえるために「私」は?

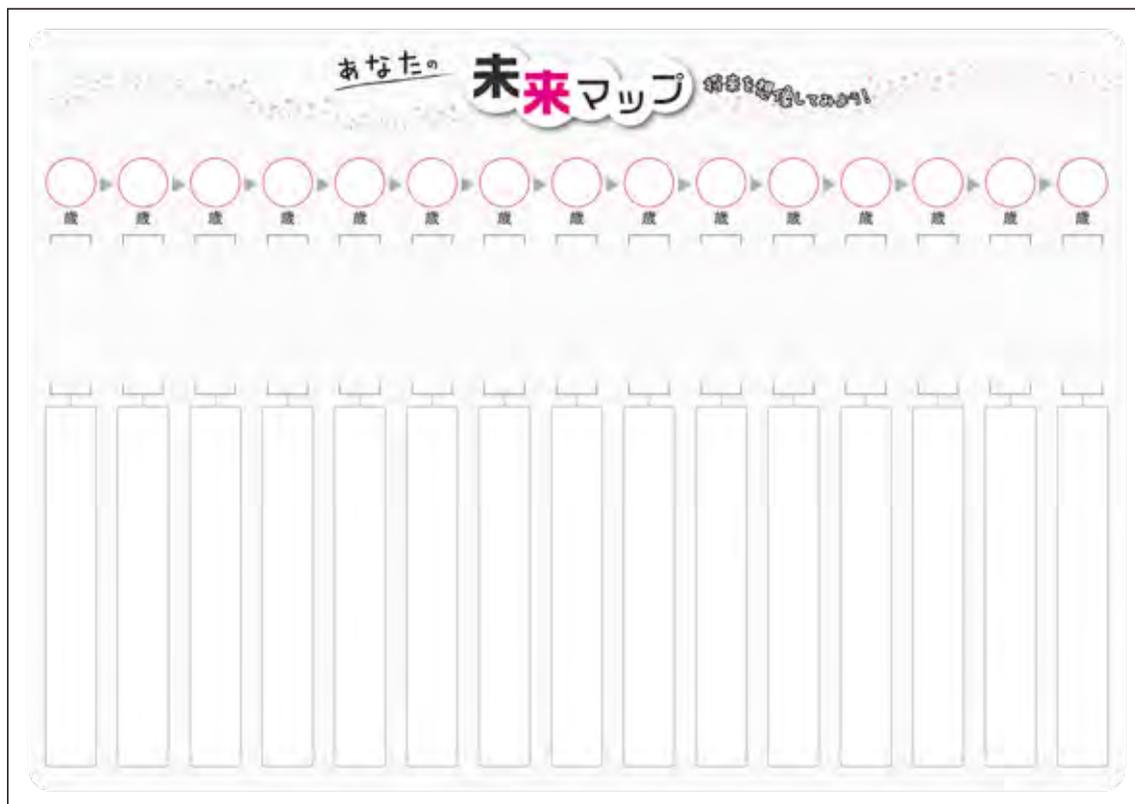
①	②	③
④	なりたい私は? (素敵な私に!)	⑤
⑥	⑦	⑧

メモ

参考資料

自分の将来を想像してみよう

○ 未来マップ・人生イベントカード



学習プログラムの
実施にあたって

プログラムの見方

第1章
人生をデザインする

第2章
子どもを育てる

資料
編

DVDの活用について

プログラム 7

参考資料

赤ちゃんになってみよう！

○ 赤ちゃんの姿の例

準備体操（徐々に赤ちゃんに戻る）



赤ちゃんの姿

【胎児～出産】

①胎児ポーズ → ②体を伸ばして誕生「生まれたら産声を上げて」

【新生児～寝返り】

③体を縮めて仰向け寝 → ④自分の握り拳を眺める、舐める →
⑤両足を縮めたまま少し上げる、下げる → ⑥足を開いて寝返りの準備 → ⑦ごろんと寝返る

【はいはい～四つんばい】

⑧肘と掌を付いて首を持ち上げる（サポーター「じょうず、じょうず」など常に声掛け） → ⑨お腹を付けた飛行機ポーズで旋回（会場が狭ければグループごとに交代で） → ⑩手を使って後ろへずりばい → ⑪足も使って前へずりばい → ⑫お腹を持ち上げて四つんばい → ⑬四つんばいポーズでお尻を前後に動かす → ⑭四つんばいで前進

【お座り～歩く】

⑮お尻を高く上げて後方へお尻を降ろしてお座り → ⑯両手を床から離して拍手 → ⑰前に手を付きお尻を上げて股のぞき → ⑱お尻を降ろして屈む → ⑲立とうとして失敗、ようやく立つ → ⑳頑張って一步を出す → ㉑よちよち歩く

サポーターが母親役

円の中心に座り、声掛け。「お母さんのお腹の中は温かい？ 気持ちいい？」「そろそろ生まれるよ」「お母さんも頑張るから赤ちゃんも頑張って！」「うーん！」など。

ワークシートの例

実習 赤ちゃんをだっこしよう!

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

新生児人形を使って、新生児を抱っこしたり、服を着せ替えたり、赤ちゃんのお世話の体験をします。

☆ 新生児のお世話の体験をしよう!

- ①抱っこする。※新生児の抱き方は、右図を参考にすること。
- ②おむつの取り替え。
- ③衣服を脱がせる。着せる。

(感じたこと、気をつけなければならないことを記入しよう)

①抱っこ

(感じたこと)

(気をつけなければならないこと)

②おむつの取り替え

(感じたこと)

(気をつけなければならないこと)

③衣服を脱がせる、着せる

(感じたこと)

(気をつけなければならないこと)

抱っこのしかた(横抱き)基本型

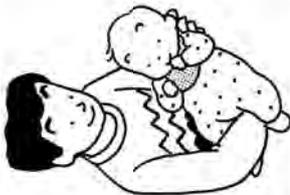
①頭とおしりを支える

赤ちゃんの肩の下に片手を入れ、後頭部を支えてから、もう一方の手をまたの腕に入れておしりを支える。



②胸に抱き上げる

そのまま胸のほうに肩がに掛かり抱き上げる。そのとき、足より腰のほうが上になるように(当然のことだが、うっかりすることがあるので注意)。



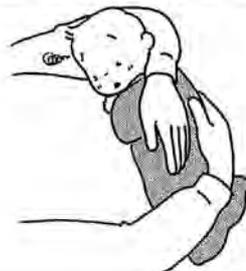
③顔をひりて支えると安定

長い指間指くときは、赤ちゃんの顔を自分のひじの裏へ押し、ひじで頭を支えるようにすると安定する。



× 強く抱きしめると
赤ちゃんは苦しいよ!

強く抱きしめないようにし、足はカエルのような形に手足に広げたままににする(顔面にまっすぐにすると、顔面顔白のおそれがある)。



出典：教育図書株式会社「家庭科わくわくワーク集 高校用」P62より

赤ちゃんとふれあい子育てについて考えよう！

年 () 組 () 番 氏名 ()

日時： 月 日 () 時間目

場所：

内容： 時間目一各講座 4 グループにわかれ、4 か月～2 歳の赤ちゃんとふれあう。

その中でお母さんから子育ての苦勞・楽しみ・嬉しいことなどお話を聞く。

時間目一交流を通じて知ったこと、感じたことをまとめ、発表できるように準備する。

授業の流れと注意事項：

- ① 前日までに、爪を短く切っておく。(赤ちゃんは顔を触るので、化粧は絶対に禁止)
- ② 1 時間目終了後すぐ、**体操服**に着替える。
髪が長い人は必ず後ろで一つにまとめる。(横でまとめると、引つ張られる)
時計、アクセサリーなどはすべてはずしておくこと。作成した名札をつけること。
- ③ 着替えが終わったらすぐに、制服と荷物をすべて持って集合する。
- ④ 入口においてあるアルコールで手を消毒してから入室する。
- ⑤ カーベットのの上にグループごとにあつまっで着席する。カーベットの upper には赤ちゃんがハイハイするので、スリッパは必ず脱いで上がること。
(当日の赤ちゃんの体調により、グループの数が変わることがある。指示に従って臨機応変に動いてください。)
- ⑥ 最初に赤ちゃんと一緒にお母さんたちの前に並んでもらう。
そのあと各グループにわかれて交流。
おもちゃを使ったり、抱っこしたり、積極的に赤ちゃんと関わること。
また、お母さんたちから、「子育ての楽しさ」「苦勞していること」「などのお話を聞く。聞きたいことを自分たちから質問し、交流を深めること。
- ⑦ 最後に皆さんから一言ずつ、今日の感想や感じたことなどお母さんたちに自分の言葉で伝える。(全員各 1 分弱ずつ)
- ⑧ 終わったら、全員でまとめをして終了。
- ⑨ 赤ちゃん・お母さんたちが雇われた後、教室の整備をする。
カーベットをたたき、机を元通りに復元し、まとめレポートを作成する。

赤ちゃんとの交流のポイント

- * 泣かれてもめげない！
赤ちゃんはお母さんが大好き！初めての人を見て不安になったりお母さんが優しく泣くんだりするの成長の証し。あなたを嫌いわけではないのであります。
- * 感性を研ぎ澄まして！
高校生のみなさんが持っている素晴らしい感性で赤ちゃんが持っているパワーをしっかりと感じてくたさい。赤ちゃんから何を感ずるのか、自分の心の動きを感じましょう。
- * 態度を持って、積極的に関わろう！
高校生のためのなら・・・と構ってくださる方々です。積極的に関わることが何よりの返し。途中、赤ちゃんの状態でおむつを替えたり、おっぱい飲んだりがあるかもしれませんが、社会で通用するマナーをわきまえて、交流をしましょう。

グループの確認

グループ A・E
グループ B・F
グループ C・G
グループ D・H

「子育て中のお母さん」に聴きたいこと、質問を考えよう！

* 子育てに関すること、赤ちゃんについて・・・なんでもいいので質問を考えておきましょう。できるだけたくさんあげておくこと。お母さんたちのお話の中に出てこなかったときは自分たちから質問してください。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

プログラム 9

プログラム 9

赤ちゃんとおふれあい、子育てについて考えよう！～各班の様子の交流～

年()組()番 氏名()

<グループ>		<グループ>		<グループ>	
() ちゃん () か月					
*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子
*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし
*その他	*その他	*その他	*その他	*その他	*その他
() ちゃん () か月					
*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子	*赤ちゃんの様子
*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし	*お母さんのおはなし
*その他	*その他	*その他	*その他	*その他	*その他

プログラム 11

第〇回保育園実習

1. 行先 ○〇保育園(所)
2. 日時 月()日()限()～()
3. 目的
 - ・子どもたちとコミュニケーションをとり、名前を覚える。
 - ・子どもたちの発達に応じた遊びを観察する。
 - ・保育士の子どもたちへのかわり方を観察する。
 - ・保育園の施設の特徴を知る。
4. 服装 <子ども達の安全を第一に考えること>
 - ・体操服・運動靴・汗拭きタオル(家庭科総合実習室で着替え、荷物もここにおく)
 - ・名札をつける。
 - ・胸時計・真金鷹類・携帯電話は身につけないこと。
 - ・爪は短く切り、マニキュア、香水、化粧品はしない。
 - ・長い髪は束ねておく。(顔の横に髪を垂らさない)
5. スケジュール(例) 9:40 着替えて校門前集合・出席点呼・出発
 9:50 ○〇保育園(所)着
 園長先生のおはなし・諸注意
 10:00 グループ毎に各組へ移動
 11:10 終了 園長先生からの話し
 11:15 保育園出発
 11:30 帰校・更衣
6. 諸注意
 - ・保育園に着いたら手洗い・消毒を必ずする。
 - ・子どもは模倣の名人です。正しい言葉遣い、正しい言動を心がけること。
 - ・自分から高校生のところに行くことができない子どもには、みんなから声をかけて下さい。1回目の声かけの時は反応がなくても、何回も声をかけるとほとんどの子は親しめます。
7. 実習クラス (リーダーに◎)

組	0歳児 3階	1歳児 1階	2歳児 2階	3歳児 年少・2階	4歳児 年中・2階	5歳児 年長・2階
ま ん ば						

年 組 番 氏名

プログラム 11

5 観察記録

子どもたちの様子(行動・言葉・表情・手の動きなど)
 <子どもたち全体>

(.....) ちゃん

先生の様子(声かけ・動き)

保育園の施設(子どもたちの安全を守るための配慮等)

6 実習を終えて、学んだ点・反省・感想

年 () 組 () 番 氏名 ()

第 回 保育園実習レポート

1 実習日 月 日 () 2・3 曜 天気 ()

2 実習場所 ○○保育園(所) 先生

3 実習クラス 歳児 組

4 実習記録

子どもたちの活動の流れ	動と 静	先生のかかわり (声かけや動き)	自分たちのかかわり

第 〇〇 保育園 (所) 実習 (各グループからの報告)

*は各年齢の様子を聞いて自分の一言感想を記入

	子どもの活動	保育士の関わり	年齢の特徴を一言で表すと
0歳児 組 メンバー			*
1歳児 組 メンバー			*
2歳児 組 メンバー			*
3歳児 組 メンバー			*
4歳児 組 メンバー			*
5歳児 組 メンバー			*

0～5歳児に成長していく子どもたちの様子と先生方のかかわり方の変化について、感じたこと・考えたことをまとめてみよう

年 () 組 () 番 氏名 ()

DVD の活用について

1 教師用DVD

(1) 平成27年度「子育て学習プログラム」実践体験教室（北部会場）（約1時間）

ア 説明

平成27年7月31日に開催された「子育て学習プログラム」実践体験教室の様子をプログラムごとに収録しています。授業の参考にしてください。

なお、実践体験教室で実施したプログラムと本プログラム集の番号は違っており、下記イ(ウ)プログラムの概要に本プログラム集の該当番号を記載しています。

イ 内容

(ア) 開催日時：平成27年7月31日（金） 午前9時20分～午後4時

(イ) 開催会場：舞鶴赤れんがパーク4号棟（舞鶴市北吸1039-2）

(ウ) プログラムの概要

①子育てって、いつから始まるの？（20分）	プログラム6-3 P 30
②赤ちゃんになってみよう！（6分）	プログラム7 P 32
③おんぶとだっこで仲良し！（5分）	プログラム10 P 40
④「子育てスタイルいろいろ」親の気持ちと社会的支援（15分）	プログラム2-2 P 8
⑤家族になってみよう！（8分）	プログラム3-2 P 12
⑥自分の将来を想像してみよう（3分）	プログラム4-4 P 22

(2) データ集

ア 説明

各プログラム、各種統計データ、授業活用シートは電子データがあります。授業内容等に合わせてご活用ください。

イ 内容

(ア) 各プログラム（Word形式）

(イ) 各種統計（Excel形式）

(ウ) 授業活用シート（Word・Excel・PDF形式）

2 生徒用DVD

(1) 説明

新生児や胎児の様子等の映像を収録しています。主にプログラム6-3「子育てって、いつから始まるか考えてみよう」、プログラム7「赤ちゃんになってみよう」でご活用ください。

(2) 内容

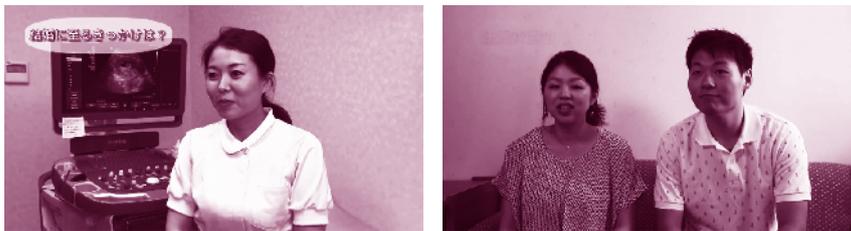
ア 新生児ルームの様子（12分）

新生児や胎児の様子、出産前後の母親のインタビュー等



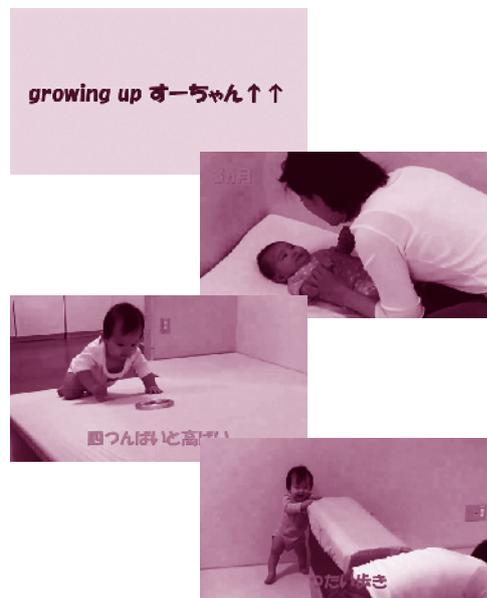
イ 結婚のきっかけ（12分）

出産前の母親及び父親のインタビュー等



ウ Growing up すーちゃん↑（10分）

生後3ヶ月から1歳までの乳児の成長記録



本書の刊行に寄せて

超少子高齢社会において、いわゆる第2の人口転換である「人口減少」が確実に進行している。この傾向は今後ますます強まり、現在20歳の若者が65歳となる2060年には、我が国の総人口は現在の約3分の2に減少すると推計されている。さらに、圧縮された人口構造のなかで15歳未満の子ども人口の割合は約9%、65歳以上の高齢者人口の割合は約40%になると想定されており、少子化はまさに2060年に高齢期を迎える現在の若者に対して、21世紀後半の社会をどのように創り、生きていくのかという大きな課題を投げかけているといえる。

2011年日本学術会議「持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築委員会」提言において、ジェロントロジー教育の重要性が記された。「個人の長寿の人生設計力、超高齢社会のデザイン力を養う面で効果があり、長寿社会に不可欠な教育である。」と考えられ、「初等教育から始まる全国民を対象としたジェロントロジー教育の導入と先進的な研究・教育体制の確立」が強く求められている。少子化と長寿高齢化は表裏一体であり、個々人が自らのライフコースをどのように切り拓いていくのか、人生設計力とデザイン力の養成が急務の課題である。

かかる社会的動向をふまえて、このたび、先生方はじめ各部署で努力を積み重ねられ、京都府教育委員会から高校生に向けた「子育て学習プログラム」が作成されたこと、さらに各府立学校で実践的取り組みがなされることは、非常に意義深いことである。

プログラムを拝見させていただくと、(1)一人ひとりが単なる夢物語ではなく、ワクワクした気持ちで実現可能なこととして、これからのライフイベントを具体的に想定し、思い描ける工夫がなされていること、(2)教科を超えたつながりが企図されていること、(3)京都府内のさまざまな支援サービス機関と連携できるように連絡先が具体的に記載されていることなど多くの特色があり、ユニークで先駆的なプログラムとなっている。

人生設計においては、ライフコースの多様性が高まり、モデルなき時代にある。第一に、結婚や出産・子育てというさまざまなライフイベントを自らどのように選択決定していくのか、一人ひとりがライフコースを見通して家庭や地域、さらに現代社会の一員としての自覚をもって考え、互いに協力し、責任を共有しあう発想を養うことが大切である。第二に、世代を超えて、子どもとして育ち、さらに、個人としてあるいは社会的にもさまざまな親役割を経験することによって、親として子どもを育み、命を次世代につないでいくというペアレンティングの認識をもつことが重要である。

各府立学校で本プログラムが積極的に活用され、次世代の子どもたちが夢をもてる21世紀社会を築き、それを支える人づくりができることを願っています。

京都教育大学 家政科 教授
杉井潤子

子育て学習プログラム検討会議委員及び実践協力校、実践体験教室参加校 (敬称略)

検討会議委員

菅井雅子	京都府立洛東高等学校教諭	
三村朋子	京都府立桃山高等学校教諭	
飯田順子	京都府立菟道高等学校教諭	
栗山真美子	京都府総合教育センター北部研修所	研究主事兼指導主事
藤本直美	京都府教育庁指導部学校教育課	指導主事
深田聡	京都府教育庁指導部高校教育課	総括指導主事兼副課長
川畑由美子	京都府教育庁指導部高校教育課	指導主事
村上昌司	京都府教育庁指導部保健体育課	総括指導主事兼副課長
塩川拓司	京都府教育庁指導部保健体育課	指導主事
阿部篤士	京都府教育庁指導部社会教育課	課長
磯崎聡子	京都府教育庁指導部社会教育課	振興担当副課長
村上未希子	京都府教育庁指導部社会教育課	主事
山下博史	京都府教育庁指導部社会教育課	総括社会教育主事
片山敏哉	京都府教育庁指導部社会教育課	総括社会教育主事
川村晋	京都府教育庁指導部社会教育課	社会教育主事
小西弘朗	京都府教育庁指導部社会教育課	社会教育主事

平成27年度実践協力校・平成26年度子育て学習プログラム実践体験教室参加校

京都府立洛東高等学校、京都府立桃山高等学校、京都府立洛水高等学校、
京都府立京都すばる高等学校、京都府立菟道高等学校、京都府立京都八幡高等学校

平成27年度子育て学習プログラム実践体験教室参加校

京都府立綾部高等学校、京都府立大江高等学校、京都府立東舞鶴高等学校、
京都府立西舞鶴高等学校、京都府立加悦谷高等学校
舞鶴市立青葉中学校、舞鶴市立白糸中学校

本書に関わる著作権は京都府教育委員会にあります。



京都府教育委員会

平成 28 年 3 月発行